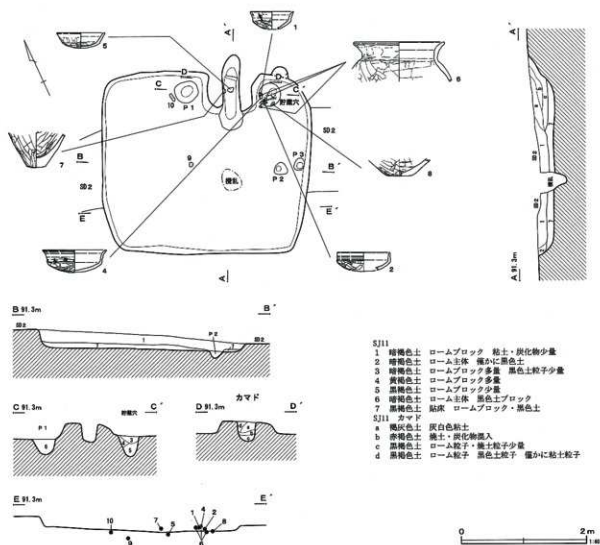


段を持って煙道となる。覆土は最上層に灰白色粘土を含む層(a層)が、その直下に焼土を含む層(b層)が観察された。袖は地山によって構築されていた。

貯蔵穴はカマド右に検出された。38×32cmの円形で、深さは31cmである。カマド左にもピットが1基検出された。38×35cmの円形で、深さは23cmである。位置的にこのピットも貯蔵穴として機能した可能性が



- SJ11
- 1 暗褐色土 ロームブロック 粘土・炭化物少量
 - 2 暗褐色土 ローム主体 僅かに黒色土
 - 3 暗褐色土 ロームブロック少量 黒色土粒子少量
 - 4 黄褐色土 ロームブロック少量
 - 5 黒褐色土 ロームブロック少量
 - 6 暗褐色土 ローム主体 黒色土ブロック
 - 7 暗褐色土 灰床 ロームブロック・黒色土
- SJ11 カマド
- a 灰白色土 灰白色粘土
 - b 赤褐色土 焼土・炭化物混入
 - c 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量
 - d 黒褐色土 ローム粒子 黒色土粒子 僅かに粘土粒子

第84図 第11号住居跡

第21表 第11号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

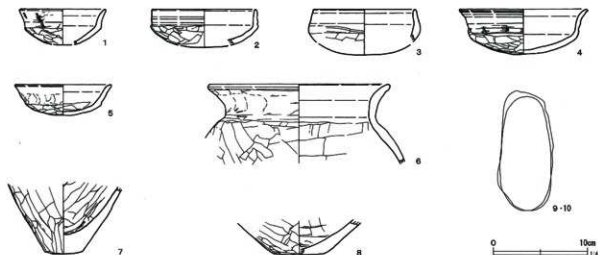
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	挽成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	坏	(9.0)	(3.7)	—	C・E	20	良好	にぶい黄褐	№6		
2	土師器	坏	(11.0)	(3.7)	—	C・H・I	30	良好	橙	№13	被熱? 剥離あり	
3	土師器	坏	(10.8)	(3.4)	—	A・I	10	良好	褐灰		層減剥離	
4	土師器	坏	13.6	4.8	—	B・C・H・I	80	良好	明赤褐	№8・カマド	剥離底面	58-2
5	土師器	坏	(10.0)	3.2	—	B・H・I	20	良好	明赤褐	№1		
6	土師器	甕	18.9	(8.3)	—	A・B・I	70	良好	にぶい褐	№1・7・中土貯穴 5+7	歪みあり	
7	土師器	甕	—	(7.3)	4.0	B・H・I	70	良好	橙	№1・2・カマド		
8	土師器	甕	—	(3.6)	(5.5)	B・G・H・I	30	良好	灰赤	№15		
9		編物石		重: 506.2 g		閃緑岩				№3		
10		編物石		重: 332.9 g		網罟母片岩				№2		

考えられる。壁溝は検出されなかった。

出土遺物は少量で、3cm以下の小破片が多く、接

合率は悪い。須恵器は認められなかった。編物石が

P1横と床面中央部から出土した。



第85図 第11号住居跡出土遺物

第12号住居跡 (第86~88図)

D-4・5、E-5グリッドに位置する。第18号住居跡、第115号土坑と重複していた。新旧関係は、第18号住居跡より新しく、第115号土坑より古い。平面形は北西~南東に長い長方形で、長軸8.28m、短軸7.48m、深さは0.21~0.56mである。主軸方位はN-50°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏が見られ、壁は開き気味に立ち上がる。床面に貼床が確認された(15層)。

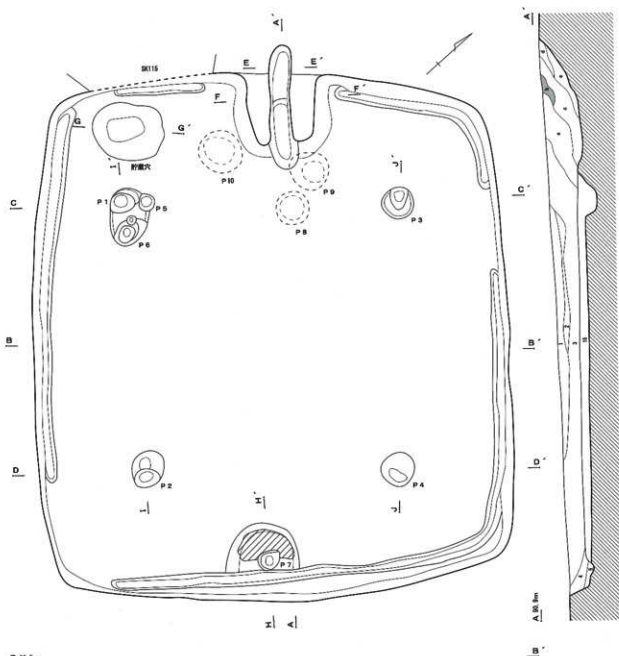
カマドは北西壁ほぼ中央に設置される。燃焼部は8cm程掘り込み、段を持って緩やかに立ち上がる煙道となる。覆土は最上部に黄灰色粘土層(a層)が、その直下に焼土層(b層)が、その下層には焼土主体の層(c層)が観察された。袖は黄灰色粘土で構築されていた。袖の内側の一部は焼土化していた。袖の構築粘土は、カマド左右の壁を結ぶラインまで

観察された。

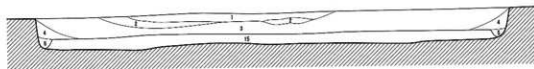
貯蔵穴は西コーナー近くで検出された。116×86cmの歪んだ長方形で、深さは49cmである。壁溝は断続的に検出され、幅12~30cm、深さ5~11cmである。南東壁の中央に半ドーナツ状の僅かな高まりが検出された。上面は半円形に硬化し、中央はビット状(P7)となっていた。

ビットは10基検出された。位置からP1~P6は柱穴と考えられる。P1・P5・P6の検出状況から数回の建替えも考えられる。P8~P10は床下ビットである。深さはP1から61cm・65cm・60cm・66cm・48cm・74cm・31cm・23cm・28cm・24cmである。

遺物は多量に出土しており、特にカマド左から貯蔵穴にかけて集中して出土した。出土遺物は5cm以下の小片が多く、図示した以外のものの接合率は悪い。編物石が南東壁際中央でまとまって出土した。



5m



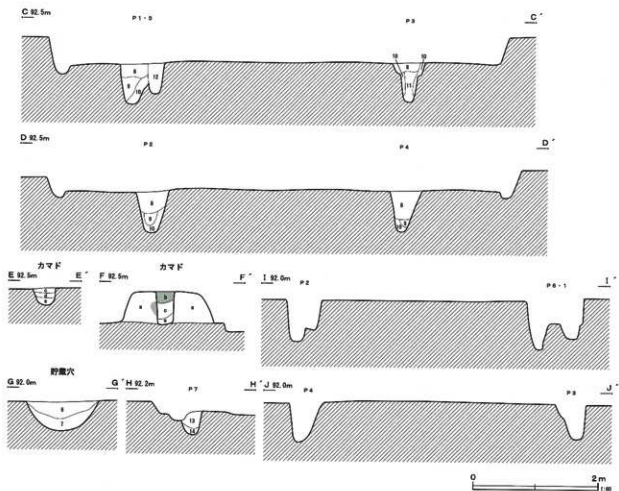
SJ12

- 1 暗褐色土 ローム粒子 灰白色粘土
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 ロームブロック 黒色土
- 4 暗褐色土 僅かにローム粒子
- 5 暗褐色土 黒褐色土 ロームブロック
- 6 暗褐色土 ロームブロック 粘土 僅かに焼土粒子
- 7 暗褐色土 黒色土 ロームブロック
- 8 暗褐色土 黒色土 ローム粒子
- 9 暗褐色土 黒色土主体 ロームブロック
- 10 暗褐色土 黒色土主体 ロームブロック多量

- 11 暗褐色土 黒色土主体 僅かにローム粒子 (柱痕か)
 - 12 暗褐色土 ロームブロック
 - 13 暗褐色土 黒色土 ローム小ブロック
 - 14 暗褐色土 ローム主体 黒色土
 - 15 黄褐色土 粘土 ロームブロック
- SJ12 ナマド
- a 黄灰色土 粘土層 ローム粒子
 - b 赤褐色土 粘土層
 - c 赤褐色土 焼土主体 粘土 ローム・炭化物
 - d 黄褐色土 ローム粒子主体 僅かに焼土粒子
 - e 黄褐色土 黒褐色土ブロック ロームブロック

0 2m 1m

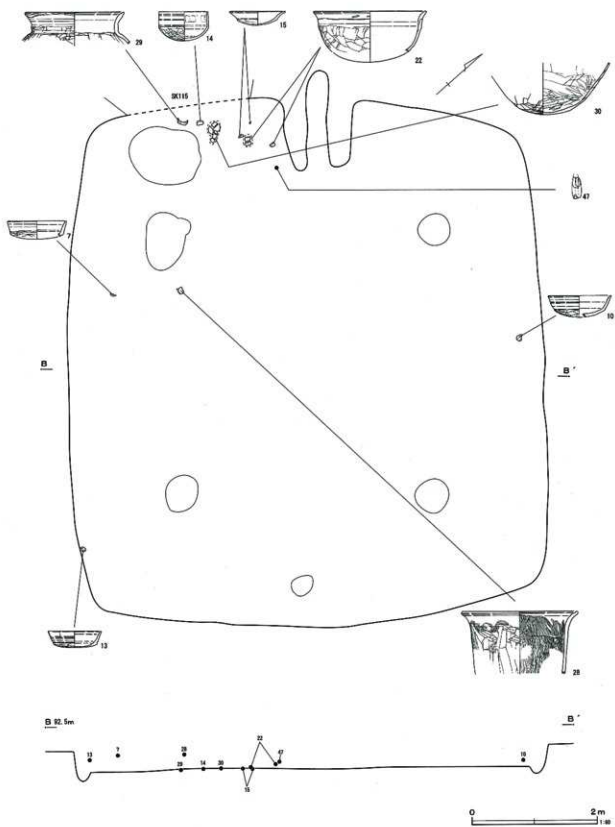
第86図 第12号住居跡 (1)



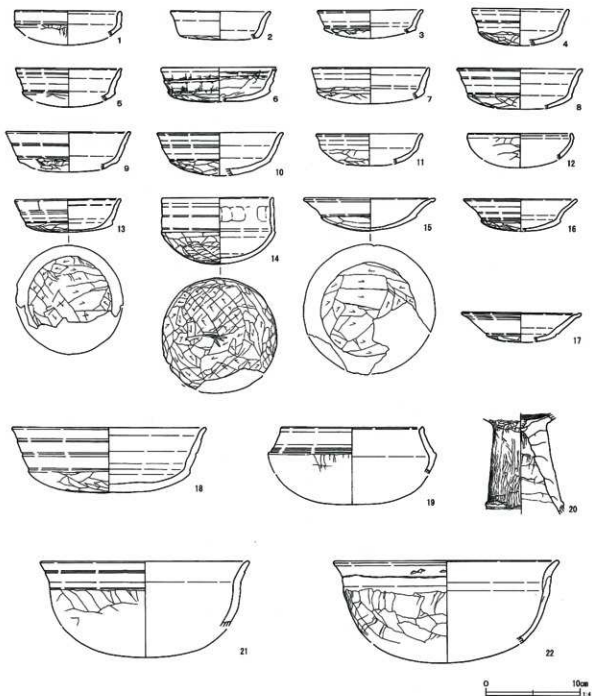
第87図 第12号住居跡 (2)

第22表 第12号住居跡出土遺物観察表 (1) (第89図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	器径(cm)	胎土・石材	壁(N)	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	坏	(11.0)	(2.7)	—	C・I	10	良好	にぶい黄褐色			
2	土師器	坏	(10.4)	(2.8)	—	B・C・H	10	良好	にぶい橙			
3	土師器	坏	(11.0)	(2.4)	—	C・E・H	10	良好	橙			
4	土師器	坏	(10.0)	(3.8)	—	A・C・H・I	30	良好	にぶい橙			
5	土師器	坏	(11.0)	(3.5)	—	C・H・I	10	良好	橙			
6	土師器	坏	(12.0)	(3.5)	—	C・H	30	良好	褐灰			
7	土師器	坏	(12.4)	(3.2)	—	C・H	30	良好	橙	No.31	磨滅顯著 磨滅顯著	
8	土師器	坏	(13.2)	(4.2)	—	C・E・H・I	50	良好	橙			
9	土師器	坏	(13.0)	(4.0)	—	C・H・I	10	良好	にぶい橙			
10	土師器	坏	(13.2)	(4.5)	—	A・C・H・I	25	良好	橙	No.36	磨滅顯著	
11	土師器	坏	(12.0)	(3.2)	—	C・H・I	20	普通	橙			
12	土師器	坏	(11.0)	(2.7)	—	C・H・I	10	良好	橙			
13	土師器	坏	11.5	3.5	—	C・E・I・K	70	良好	橙	No.39, P 1		
14	土師器	坏	12.0	7.0	—	I・K	80	良好	にぶい橙	No.25		
15	土師器	皿	13.4	3.5	—	H・I・K	80	良好	橙	No.16-19		58-4
16	土師器	坏	(12.0)	(3.4)	—	C・E・H・I	30	普通	橙		タール付着 (外周一部) 磨滅顯著	58-5
17	土師器	皿	(12.6)	(3.1)	—	C・H・I	30	普通	橙	カマド		
18	土師器	坏	(20.3)	6.9	—	B・C・E・H・I	20	良好	橙	P 6	磨滅顯著	
19	土師器	坏	(15.0)	(4.8)	—	C・I	10	良好	橙			
20	土師器	高坏	—	10.5	—	C・I	80	良好	橙			



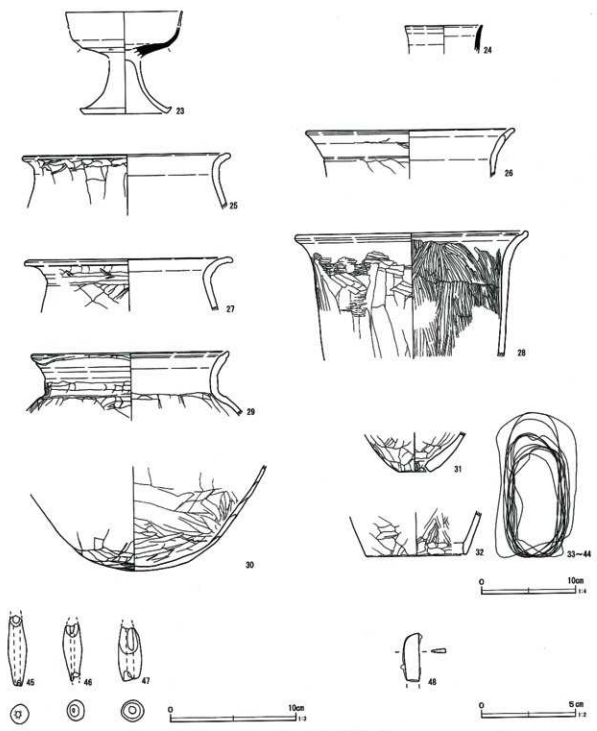
第88图 第12号住居跡遺物出土状况



第89図 第12号住居跡出土遺物 (1)

第23表 第12号住居跡出土遺物観察表 (2) (第89・90図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
21	土師器	鉢	(22.0)	(6.7)	—	B・H・I	20	良好	明赤褐	No.12-14	磨減顯著 末野産 SJ13Dと接合 末野産	
22	土師器	鉢	(20.0)	(8.5)	—	B・C・E・G・H・I	30	普通	橙			
23	須恵器	高坏	—	(3.2)	—	B・I	40	良好	灰	P 4 カマフ		
24	須恵器	平瓶	(8.0)	(3.0)	—	I・K	10	良好	灰			
25	土師器	甕	(22.0)	(5.9)	—	B・C・G・H	10	良好	橙	カマフ		
26	土師器	甕	(22.0)	(5.1)	—	C・E・G・H・I	10	良好	橙			
27	土師器	甕	(22.0)	(5.3)	—	C・E・G・I	10	良好	橙			



第90図 第12号住居跡出土遺物(2)

第24表 第12号住居跡出土遺物観察表(3)(第90図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	期(N)	焼成	色調	出土位置	備考	図版
28	土師器	甌	24.3	(13.2)	—	C・H・I	45	普通	にぶい橙	No.9・32		
29	土師器	甕	(20.5)	(6.4)	—	C・E・I	45	良好	灰黄	No.27		
30	土師器	甕	—	(10.9)	10.4	C・D・H・I	70	不良	にぶい橙	No.23	磨耗が激しい	
31	土師器	甌	—	(4.0)	(3.4)	C・H・I	50	良好	橙			
32	土師器	甌	—	—	10.6	C・G・H	10	良好	にぶい黄褐			
33		編物石	重: 360.6g			砂岩				No.1		

第25表 第12号住居跡出土遺物観察表 (4) (第90図)

番号	種別	部種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
34		編物石	重: 335.9 g			チャート				№10		
35		編物石	重: 797.8 g			砂岩				№13		
36		編物石	重: 315.8 g			砂岩				№17		
37		編物石	重: 374.3 g			緑泥片岩				№40		
38		編物石	重: 301.1 g			ホルンフェルス				№42		
39		編物石	重: 373.8 g			砂岩				№43		
40		編物石	重: 369.9 g			砂岩				№44		
41		編物石	重: 309.5 g			砂岩				№45		
42		編物石	重: 323.5 g			砂岩				№46		
43		編物石	重: 362.7 g			砂岩				№49		
44		編物石	重: 648.5 g			砂岩				カマド		
45	土製品	土罐	孔径: 0.5cm 長: 5.6cm 径: 1.5cm 重: 10.1 g				90		明赤褐			61-1
46	土製品	土罐	孔径: 0.3cm 長: 4.5cm 径: 1.4cm 重: 7.9 g				60		明褐			61-1
47	土製品	土罐	孔径: 0.6cm 長: 4.2cm 径: 1.8cm 重: 10.7 g				50		赤褐	№11		61-1
48	鉄製品	刀子磨	現存長: 2.5cm 幅: 0.7cm 重: 1.9 g							カマド	鍔身部	56-6

第13号住居跡 (第91～93図)

C-3・4、D-3・4グリッドに位置する。第18号住居跡、第20号住居跡、第113号土坑と重複していた。新旧関係は、第18号住居跡、第20号住居跡より新しく、第113号土坑より古い。P4周辺の床面は攪乱で壊されていた。規模は一辺が約8.00mの正方形で、深さは0.29～0.60mである。主軸方位はN-29°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開きながら立ち上がる。覆土には短時間で入ったと考えられる厚い層(2層)が観察された。床面には貼床が確認された(16層)。

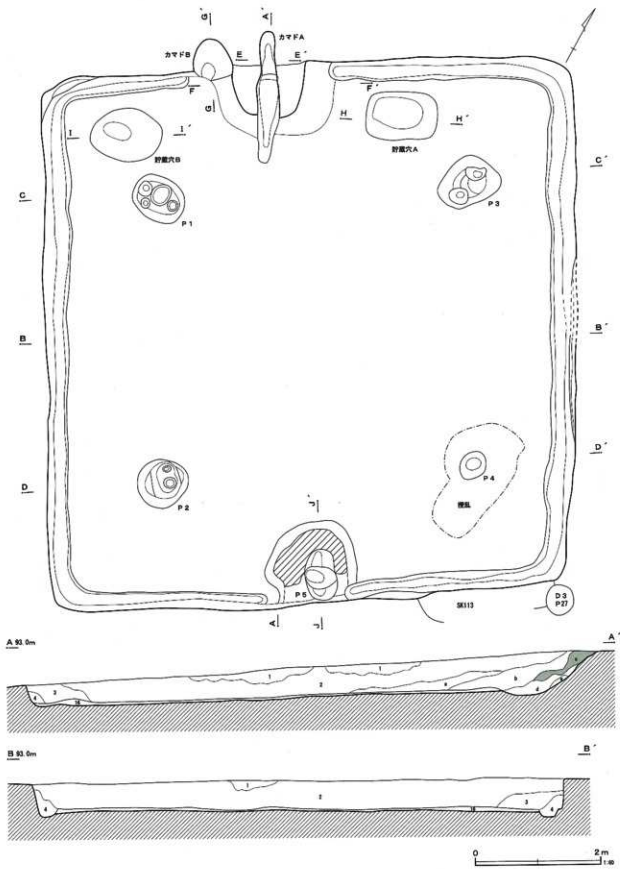
カマドは2基検出された。共に北西壁の中央よりやや西寄りに設置される。カマドBの燃焼部は10cm程掘り下げ、小さな段を持って緩やかに立ち上がる煙道となる。覆土には焼土ブロックを含む粘土層(b層)の下層に焼土層(c層)が観察された。袖は上半を淡黄色粘土(h層)、下半を焼土ブロック混じりの黒褐色土(g層)で構築されていた。袖の構築粘土は、カマド左右の壁を結ぶラインまで観察された。カマドBはカマドAより古いもので、煙道の一部と思われる部分に、灰白色粘土を多く含む層(h層)と焼土層(i層)が残存していた。

貯蔵穴は2基検出された。貯蔵穴AはカマドAの

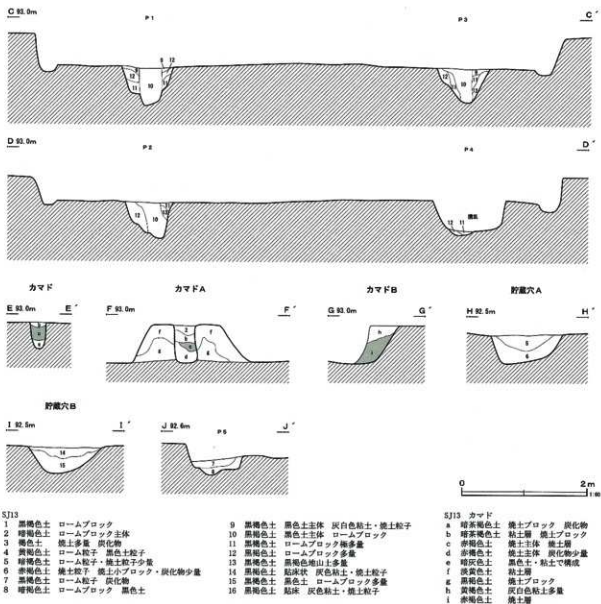
右側に検出された。114×76cmの長方形で、深さは52cmである。貯蔵穴BはカマドBの左側の西コーナー近くに検出された。115×83cmの楕円形で、深さは44cmである。覆土上層は灰色粘土と焼土粒子の混入した黒褐色土で、貼床状となっていた(14層)。壁溝はほぼ全周する。幅26～48cm、深さ7～17cmである。南東壁の中央に半ドーナツ状の僅かな高まりが検出された。上面は硬化し、中央は段を持ったピット状(P5)となっていた。ピットは5基検出された。位置的にP1～P4は柱穴と考えられる。P4は上部を攪乱に壊されていた。P1からP3は覆土に柱痕が観察された。検出状況から数回の建替えが考えられる。最深部の深さはP1から62cm・59cm・52cm・54cm・29cmである。

北東壁を中心に住居跡南側の壁際に焼土を多量に含む褐色土が検出された。一部は被熱し、硬化した部分が見られた。

遺物はコンテナ7箱分と多量に出土した。大半が土師器で、須恵器は少量である。また、5cm以下の破片が多く、接合率は悪い。このため図示したものも残存率が低いものが多い。貯蔵穴BやP3周辺でやや多く出土し、住居跡中央ではほとんど遺物は見られなかった。編物石が33点出土した。出土状況は散漫で、南東壁際中央にややまとまる程度である。



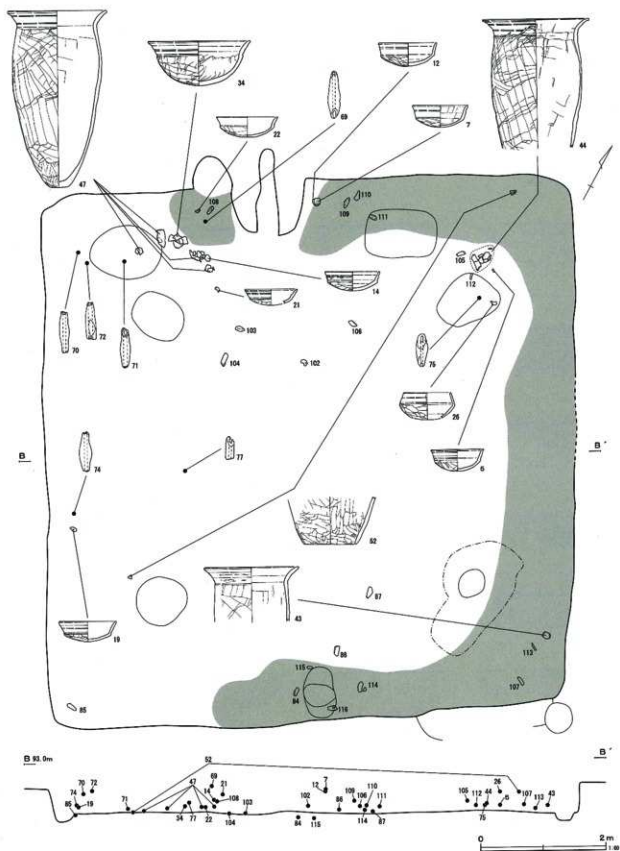
第91図 第13号住居跡 (1)



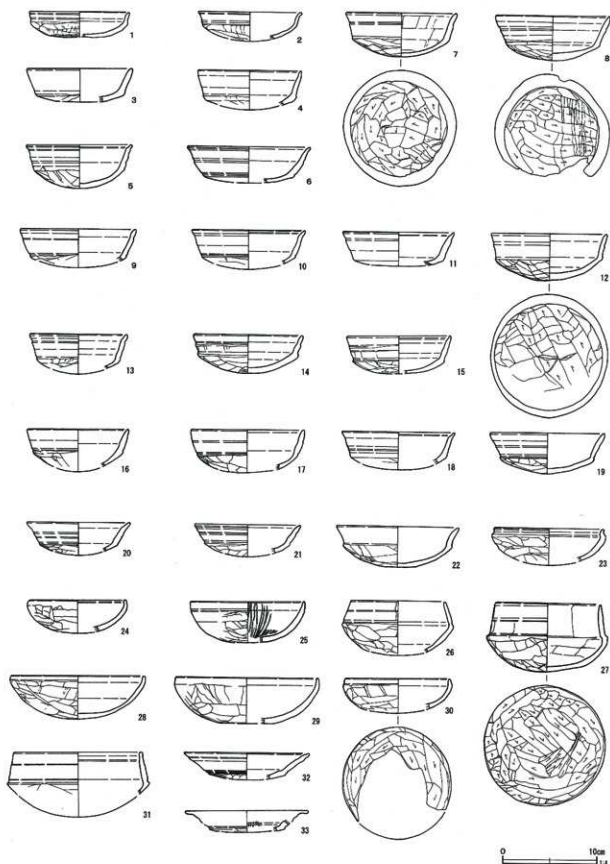
第92図 第13号住居跡 (2)

第26表 第13号住居跡出土遺物観察表 (1) (第94図)

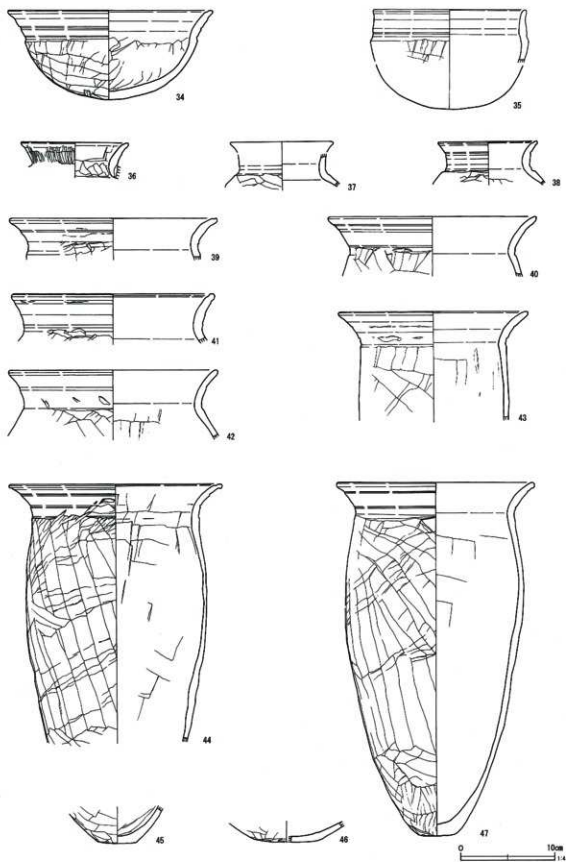
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	口径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	坏	(10.5)	(2.7)	—	C・E・H・I	20	普通	橙	No47	剥離顯著	
2	土師器	坏	(10.6)	(2.8)	—	C・E	10	良好	橙			
3	土師器	坏	(11.0)	(3.5)	—	C・H・I	10	普通	橙			
4	土師器	坏	(10.8)	(4.2)	—	B・E・G・I	10	普通	橙			
5	土師器	坏	(12.0)	4.5	—	C・E・H・I	30	普通	橙			
6	土師器	坏	(13.0)	(3.8)	—	B・C・E・H・I	30	普通	橙			
7	土師器	坏	11.4	5.6	—	A・C・I・K	100	普通	橙			
8	土師器	坏	11.3	4.7	—	C・E・I・K	70	普通	橙			
9	土師器	坏	(12.2)	(3.4)	—	C・E・H・I	10	良好	褐			
10	土師器	坏	(12.0)	(3.3)	—	C・E・H・I	40	普通	橙			
11	土師器	坏	(11.6)	(3.4)	—	B・C・E・H・I	15	普通	橙			
12	土師器	坏	12.3	5.0	—	H・K	100	良好	橙	No64	剥離顯著	58-8
13	土師器	坏	(10.2)	(3.5)	—	C・I	10	普通	灰黄褐			
14	土師器	坏	(11.5)	4.0	—	C・E・H・I	30	普通	にぶい橙			



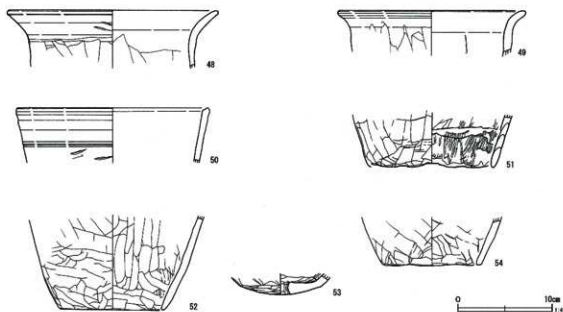
第93图 第13号住居跡遺物出土状況



第94图 第13号住居跡出土遺物 (1)



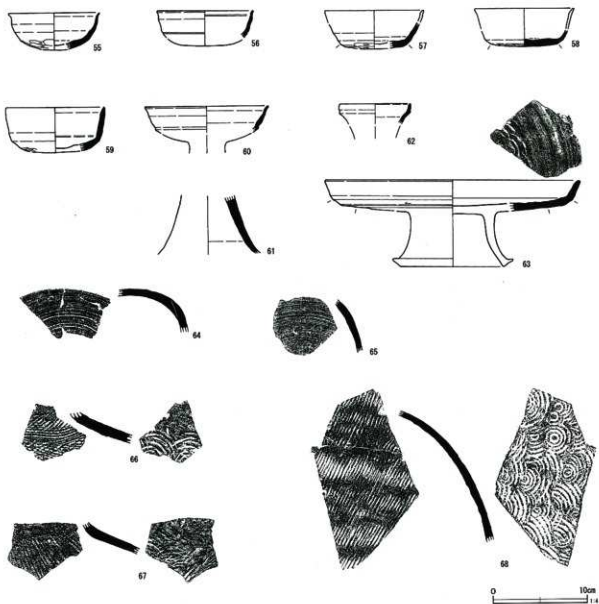
第95图 第13号住居跡出土遺物 (2)



第96図 第13号住居跡出土遺物(3)

第27表 第13号住居跡出土遺物観察表(2)(第94・95図)

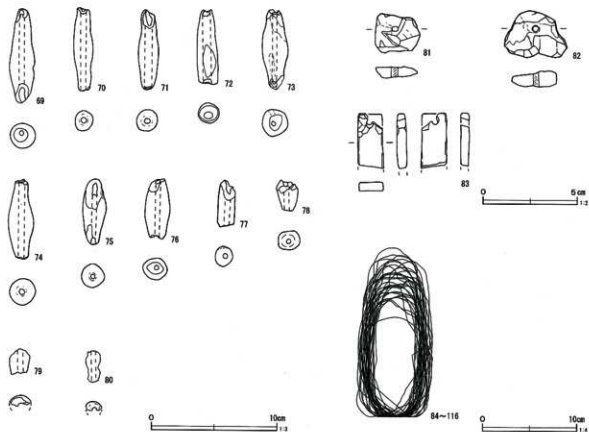
番号	種別	器種	口径(m)	器高(m)	直径(m)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
15	土師器	坏	(10.8)	(3.9)	—	C・H	40	良好	にぶい橙		内外面炭化物?付着	
16	土師器	坏	(10.6)	(3.9)	—	C・H・I	20	良好	灰褐			
17	土師器	坏	(12.0)	(4.3)	—	B・C・E・H・I	30	良好	橙	貯穴		
18	土師器	坏	(13.0)	(3.4)	—	C・H・I	10	普通	橙	P 4		
19	土師器	坏	(12.0)	4.3	—	C・E・H・I	40	普通	橙	No.31		
20	土師器	坏	(10.8)	(3.0)	—	C・I	15	普通	橙			
21	土師器	坏	(11.2)	(3.1)	—	C・E・H・I	10	良好	灰褐	No.2		
22	土師器	坏	(12.8)	4.3	—	A・C・E・H・I	40	良好	橙	No.6		
23	土師器	坏	(11.5)	(3.4)	—	C・I	15	普通	にぶい橙			
24	土師器	坏	(10.0)	(3.2)	—	C・H・I	10	普通	橙		磨滅顯著で詳細不明	
25	土師器	坏	(12.0)	(5.2)	—	C・G	10	良好	橙			
26	土師器	坏	(10.0)	(5.3)	—	C・E・H・I	30	普通	にぶい黄褐	No.24		
27	土師器	坏	11.0	7.2	—	C・E・I	100	良好	にぶい黄橙			58-9
28	土師器	坏	(14.0)	4.5	—	C・H・I	30	良好	にぶい橙			
29	土師器	坏	(15.0)	(4.8)	—	C・E・H・I	40	普通	橙		磨滅顯著	
30	土師器	坏	11.2	(3.8)	—	C・E	55	普通	橙			58-10
31	土師器	坏	(14.0)	(4.4)	—	C・E・G・H・I	30	普通	橙			
32	土師器	皿か	(12.8)	(2.7)	—	E・G・H・I	10	良好	にぶい黄褐			
33	土師器	坏	(12.6)	(2.2)	—	C・I	5	良好	橙			
34	土師器	鉢	21.3	9.4	—	C・H・I	80	良好	橙	No.10		55-4
35	土師器	坏	(16.0)	(5.5)	—	C・E・H・I	10	良好	にぶい黄褐			
36	土師器	小型壺	(11.4)	(3.8)	—	C・E・H	20	良好	にぶい黄褐			
37	土師器	小型壺	(10.8)	(4.8)	—	C・H	20	普通	橙		磨滅顯著	
38	土師器	小型壺	(10.5)	(4.6)	—	C・E・H	15	良好	にぶい黄褐			
39	土師器	壺	(22.0)	(4.4)	—	B・C・G・H・I	15	良好	にぶい黄橙			
40	土師器	壺	(22.0)	(6.3)	—	C・G・H・I	20	良好	にぶい褐色			
41	土師器	壺	(21.4)	(5.2)	—	C・E・G・H・I	30	良好	橙			
42	土師器	壺	(22.2)	(7.3)	—	C・H・I	10	良好	橙			
43	土師器	壺	(20.2)	(11.3)	—	C・H・I	40	良好	橙	No.51		
44	土師器	壺	(22.1)	(27.0)	—	C・I	40	良好	にぶい黄褐	No.22		55-5



第97図 第13号住居跡出土遺物 (4)

第28表 第13号住居跡出土遺物観察表 (3) (第95~97図)

番号	種別	器種	口径(m)	器高(m)	底径(m)	胎土・石材	厚(%)	焼成	色調	出土位置	備考	図版
45	土師器	甕	—	(3.9)	4.2	C・G・H・I	80	良好	にぶい褐			
46	土師器	甕	—	(2.2)	7.0	C・G・H・I	25	良好	橙			
47	土師器	甕	(20.6)	37.2	4.0	C・E・G・I	70	良好	にぶい黄橙	No.7・9・12・13	磨減顯著	54・2
48	土師器	甕	(22.5)	(6.1)	—	C・H・I	40	良好	にぶい橙	カマド袖		
49	土師器	甕	(20.0)	(4.3)	—	B・C・G・H	20	普通	橙			
50	土師器	甕か	(20.0)	(5.8)	—	C・H・I	25	普通	にぶい橙		磨減顯著	
51	土師器	甕	—	(5.5)	(13.0)	H・I	25	良好	にぶい橙	SJ20と接合		
52	土師器	甕	—	(9.9)	(11.0)	C・H・I	40	良好	にぶい橙	No.34・46		
53	土師器	甕	—	(2.1)	8.5	C・H・I	20	良好	褐灰			
54	土師器	甕	—	(5.0)	(9.6)	B・E・H・I	30	良好	褐灰			
55	須恵器	甕	(9.5)	(3.8)	—	B・I	20	良好	暗灰		末野産か	
56	須恵器	甕	(10.0)	(2.9)	—	I	5	普通	暗灰		末野産か	
57	須恵器	甕	(10.4)	(2.7)	—	I・K	15	普通	褐灰		末野産か	



第98図 第13号住居跡出土遺物 (5)

第29表 第13号住居跡出土遺物観察表 (4) (第97・98図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
58	須恵器	環	(10.4)	(1.7)	(8.2)	B・I	25	良好	青灰		末野産	
59	須恵器	環	(10.3)	(4.5)	—	B・I	15	良好	暗青灰		末野産	
60	須恵器	高環	(13.0)	(2.8)	—	I	5	普通	青灰		末野産・無蓋高環か	
61	須恵器	高環か	—	(6.2)	—	B・I	30	普通	灰		末野産・高環脚部か	
62	須恵器	小型瓶	(7.4)	(2.1)	—	B・I	5	良好	灰		末野産・器種不明確	
63	須恵器	盤	(27.0)	(3.3)	—	B・I	10	良好	青灰		末野産・脚付盤か	56-5
64	須恵器	横瓶	—	—	—	E・G	10	良好	灰			60-1
65	須恵器	横瓶	—	—	—	E	5	良好	灰			60-1
66	須恵器	甕	—	—	—	E・K	5	良好	灰			60-1
67	須恵器	甕	—	—	—	E・H	5	良好	灰			60-1
68	須恵器	甕	—	—	—	E・K	10	良好	にぶい赤褐			60-1
69	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:7.4cm	径:2.0cm	重:21.7g	80		浅黄	No.1		61-1
70	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:6.6cm	径:1.5cm	重:11.9g	95		赤褐	No.3		61-1
71	土製品	土鍾	孔径:0.5cm	長:6.4cm	径:4.6cm	重:12.7g	90		赤褐	No.15		61-1
72	土製品	土鍾	孔径:0.7cm	長:6.0cm	径:1.7cm	重:14.2g	80		にぶい黄橙	No.4		61-1
73	土製品	土鍾	孔径:0.3cm	長:6.4cm	径:2.0cm	重:21.9g	90		橙			61-1
74	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:6.3cm	径:2.0cm	重:17.9g	95		にぶい赤褐	No.30		61-1
75	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:5.2cm	径:1.8cm	重:14.5g	75		オリーブ黒	No.49		61-1
76	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:4.8cm	径:1.9cm	重:13.4g	80		黒褐			61-1
77	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:3.7cm	径:1.4cm	重:6.3g	50		橙	No.5		61-1
78	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:2.6cm	径:1.8cm	重:5.0g	35		黒褐			61-1
79	土製品	土鍾	孔径:0.4cm	長:2.0cm	径:1.7cm	重:2.5g	10		暗褐			61-1
80	土製品	土鍾	孔径:0.3cm	長:2.5cm	径:1.2cm	重:1.3g	5		明黄褐			61-1

第30表 第13号住居跡出土遺物観察表 (5) (第98図)

番号	種別	器種	口径(m)	器高(m)	口径(m)	胎土・石材	胎色	焼成	色調	出土位置	備 考	図版
81	石製品	白玉	滑石	孔径: 0.3cm	最大径: 2.1cm	下面径: 2.3cm	厚: 1.0cm	重: 4.6g				61-2
82	石製品	白玉	滑石	孔径: 0.3cm	最大径: 2.5cm	下面径: 3.4cm	厚: 0.9cm	重: 8.0g				61-2
83	石製品	不明品	シルト質?	孔径: 0.8cm	長: (2.9)cm	幅: 1.3cm	厚: 0.4cm	重: 2.9g			模造品か?	61-2
84	編物石		重: 281.2g			絹雲母片岩				No57		
85	編物石		重: 465.8g			砂岩				No58		
86	編物石		重: 715.5g			絹雲母片岩				No59		
87	編物石		重: 491.6g			絹雲母片岩				No61		
88	編物石		重: 380.8g			絹雲母片岩						
89	編物石		重: 244.6g			絹雲母片岩						
90	編物石		重: 442.7g			ホルンフェルス						
91	編物石		重: 378.5g			緑泥片岩						
92	編物石		重: 485.6g			砂岩						
93	編物石		重: 410.2g			絹雲母片岩						
94	編物石		重: 364.5g			絹雲母片岩						
95	編物石		重: 727.3g			砂岩						
96	編物石		重: 659.7g			絹雲母片岩						
97	編物石		重: 407.4g			砂岩						
98	編物石		重: 555.4g			砂岩						
99	編物石		重: 508.5g			砂岩						
100	編物石		重: 472.5g			砂岩						
101	編物石		重: 480.0g			砂岩						
102	編物石		重: 343.4g			砂岩				No29		
103	編物石		重: 914.1g			砂岩				No17		
104	編物石		重: 444.9g			絹雲母片岩				No18		
105	編物石		重: 387.1g			絹雲母片岩				No21		
106	編物石		重: 452.2g			絹雲母片岩				No27		
107	編物石		重: 566.7g			絹雲母片岩				No41		
108	編物石		重: 428.6g			砂岩				No42		
109	編物石		重: 409.4g			絹雲母片岩				No43		
110	編物石		重: 398.1g			絹雲母片岩				No44		
111	編物石		重: 536.2g			絹雲母片岩				No45		
112	編物石		重: 461.3g			チャート				No48		
113	編物石		重: 418.0g			石英				No52		
114	編物石		重: 534.3g			砂岩				No53		
115	編物石		重: 311.2g			砂岩				No56		
116	編物石		重: 455.2g			絹雲母片岩				No55		

第15号住居跡 (第99図)

G-3、H-3グリッドに位置する。大半が調査区域外にあり、西側コーナーを検出したのみである。検出した規模は西壁2.70m、南壁1.26m、深さは0.20~0.27mである。西壁の方はN-36°-Eを指す。

床面は中心付近がやや低くなる傾向が見られ、壁

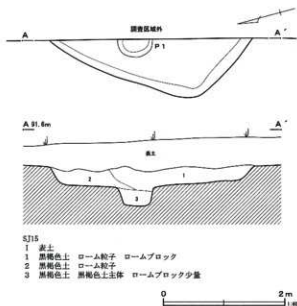
は開きながら立ち上がる。覆土は2層で、調査時には埋戻しと考えられた。

カマド、貯蔵穴、壁溝等は検出されなかった。ピットは調査区際に1基検出された。深さは31cmである。

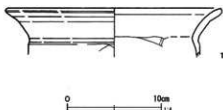
遺物は土師器口縁部片が2片出土したのみであった。1片は図示したもので、他は別の個体である。

第31表 第15号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	種別	器種	口径(m)	器高(m)	口径(m)	胎土・石材	胎色	焼成	色調	出土位置	備 考	図版
1	土師器	壺	(22.8)	(5.1)	-	A・C・G・I	20	良好	にぶい黄褐色	試掘確認面		



第99図 第15号住居跡



第100図 第15号住居跡出土遺物

第16号住居跡 (第101・102図)

B-2・3、C-2・3グリッドに位置する。C-3グリッド-ピット4と重複し、本住居跡が古い。北西壁、南西壁と床面の一部を攪乱に壊されていた。平面形は台形に近く、北東壁が南西壁に比べてやや短い。長軸4.90m、短軸4.66m、深さは0.11~0.34mである。主軸方位はN-52°-Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は2層で、短時間で埋没したと考えられる。床面に貼床が確認された。

カマドは北東壁の中央に設置される。燃焼部は15cm程掘り込み、開き気味に立ち上がり煙道へ続く。覆土中層に焼土粒子を多く含む層 (b層) と天井崩落土と考えられる焼土層 (c層) が観察された。袖は粘土によって構築されていた。右袖には補強と考えられる土師器甕が倒れて出土し、内部の粘土は被

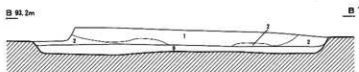
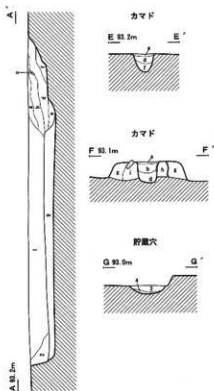
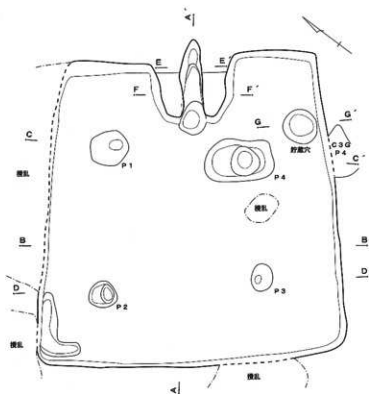
熱によって赤色化していた。左袖は2個の長方形の片岩によって補強されていた。袖の構築粘土は、カマド左右の壁を結ぶラインのやや内側まで観察された。

貯蔵穴はカマド右の南東壁際で検出された。56×52cmの円形で、深さは16cmである。壁溝は西コーナーにのみ検出され、幅20~32cm、深さは5~8cmである。ピットは4基検出された。位置的に何れも柱穴と考えられる。深さはP1から51cm・47cm・49cm・40cmである。

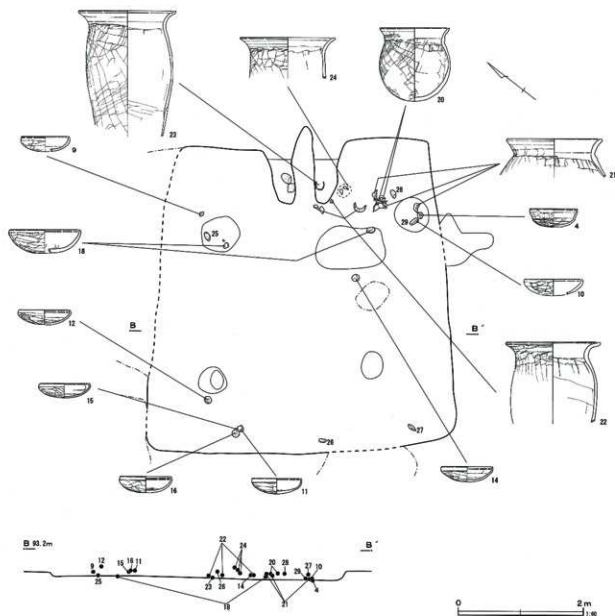
遺物はカマドから貯蔵穴周辺を中心にやや多めに出土した。接合率は図示した遺物以外は悪い。土師器甕の底部の破片が認められなかった。須恵器は図示した2点以外に甕の胴部片が1点認められる。編物石が6点出土したが、出土状況は散漫である。

第32表 第16号住居跡出土遺物観察表 (1) (第103図)

番号	種別	器種	口径(m)	器高(m)	器径(m)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	環	(10.0)	(2.1)	-	C・I	10	良好	にぶい橙	No27	磨滅顯著	59-1
2	土師器	環	(11.0)	(3.4)	-	C・H・I	10	良好	にぶい黄褐			
3	土師器	環	(9.7)	(4.4)	-	B・H・I	20	良好	にぶい赤褐			
4	土師器	環	9.8	3.9	-	E・H	90	普通	褐			
5	土師器	環	(11.0)	(2.6)	-	C・I	5	良好	にぶい黄褐			
6	土師器	環	(10.0)	(2.9)	-	B・C・E・H・I	20	良好	明赤褐			
7	土師器	環	(11.5)	(3.1)	-	C・H・I	40	良好	橙			



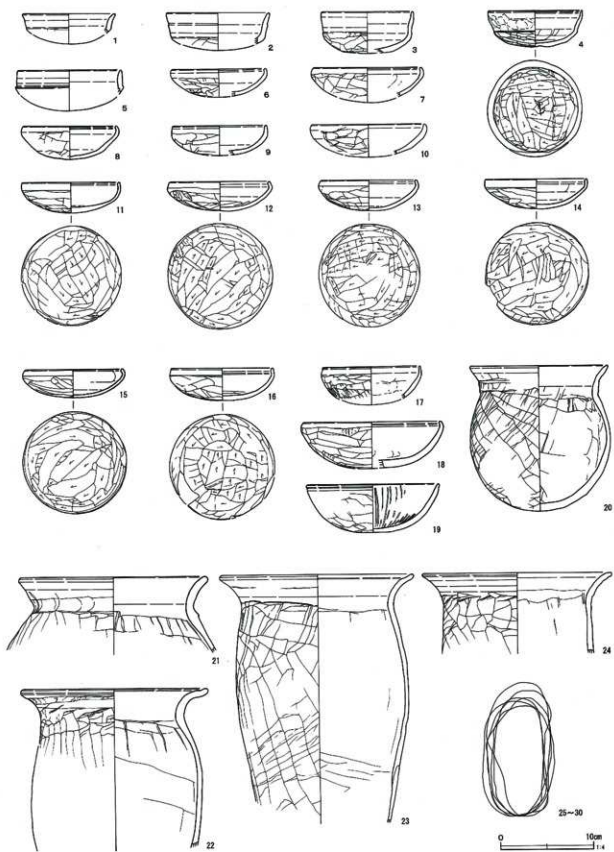
第101図 第16号住居跡



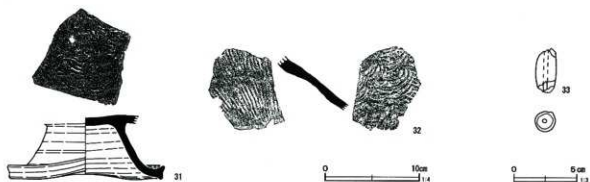
第102図 第16号住居跡遺物出土状況

第33表 第16号住居跡出土遺物観察表(2) (第103図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
8	土師器	坏	(10.0)	3.6	—	C・H・I	30	良好	明赤褐			
9	土師器	坏	(10.0)	(3.1)	—	C・G	30	良好	にぶい橙	No.2		
10	土師器	坏	(12.0)	(3.2)	—	A・C・I	10	良好	橙	No.29		
11	土師器	坏	10.3	3.3	—	C・G・H・I	95	普通	橙	No.8		59-2
12	土師器	坏	10.7	3.1	—	C・I・K	100	普通	橙	No.6		59-3
13	土師器	坏	10.2	3.3	—	C・E・I	95	普通	橙			59-4
14	土師器	坏	10.6	3.3	—	E・H・I	95	普通	褐	No.16		59-5
15	土師器	坏	10.2	3.0	—	C・I	100	良好	にぶい褐	No.9		59-6
16	土師器	坏	11.2	3.4	—	A・E・H	90	普通	橙	No.7		59-7
17	土師器	坏	(10.4)	(3.4)	—	C・I	20	良好	橙			
18	土師器	坏	14.6	(4.9)	—	C・E・I	50	良好	橙	No.4・17	磨減顯著	59-8



第103图 第16号住居跡出土遺物 (1)



第104図 第16号住居跡出土遺物(2)

第34表 第16号住居跡出土遺物観察表(3)(第103・104図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
19	土師器	坏	(14.2)	5.0	—	C・E・I	20	良好	橙	カマド		
20	土師器	小型甕	14.5	15.3	—	C・E・H・I	60	普通	にぶい黄褐	№20・21・33		55-6
21	土師器	甕	19.8	(8.1)	—	C・I	70	良好	にぶい橙	№19・22・26		56-1
22	土師器	甕	19.7	(16.9)	—	C・H・I	70	良好	橙	№6・7・12・18.カマド		56-2
23	土師器	甕	20.3	26.4	—	C・G・H・I	90	良好	橙	№12.カマド		56-3
24	土師器	甕	(20.0)	(8.4)	—	C・I	30	良好	にぶい橙	№8・9・10.カマド		56-4
25		編物石	重: 418.8g			網雲母片岩				№3		
26		編物石	重: 412.9g			チャート				№11		
27		編物石	重: 452.5g			網雲母片岩				№14		
28		編物石	重: 596.4g			砂岩				№24		
29		編物石	重: 567.6g			砂岩				№28		
30		編物石	重: 363.8g			砂岩				№32		
31	須恵器	高盤	—	6.5	15.8	E・K	80	良好	灰黄			59-9
32	須恵器	甕	—	—	—	E・G	—	普通	灰			60-1
33	土製品	土錘	孔径: 0.4cm 長: 3.5cm 径: 1.5cm 重: 9.1g				40		明黄褐			61-1

第20号住居跡(第105図)

D-3グリッドに位置する。大半を第13号住居跡によって壊されていた。検出された規模は東壁3.88m、北壁1.50mで、深さは0.26~0.34mである。東壁の方位はN-2°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

覆土の観察は出来なかった。

カマドは検出されなかったが、貯蔵穴の位置や、北壁近くの覆土に白色粘土や焼土が含まれていたこ

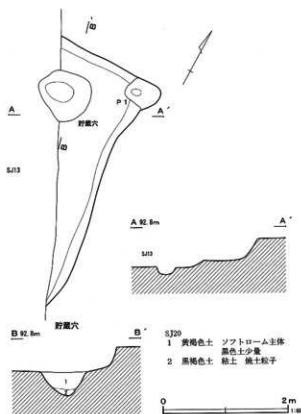
とから第13号住居跡によって壊された北壁に設置されていたと考えられる。

貯蔵穴は第13号住居跡との境の北壁近くで検出された。84×80cmの楕円形に近く、深さは36cmである。ピットは北東コーナーに1基検出された。深さは遺構確認面から31cm、床面からは4cmである。

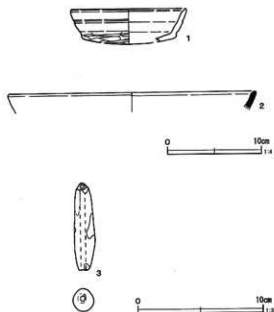
出土遺物は少量で、接合率は悪い。図示した器種も残存率は極めて低く、これら以外に土師器甕が認められる。

第35表 第20号住居跡出土遺物観察表(第106図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	坏	(12.0)	(3.5)	—	C・H・I	10	良好	にぶい橙		炭化物付着	
2	須恵器	盤	(26.0)	(2.0)	—	B・I・K	5	良好	暗灰		末野産 底部欠失	
3	土製品	土錘	孔径: 0.4cm 長: 6.9cm 径: 1.7cm 重: 19.3g				95		にぶい黄褐			61-1



第105図 第20号住居跡



第106図 第20号住居跡出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第107・108図)

C-1・2、D-2グリッドに位置する。第17号住居跡、第80・81・82号土坑、C-2グリッド-ピット4・10・11・12と重複していた。第17号住居跡より新しく、他の遺構との新旧関係は不明瞭だが、本掘立柱建物跡の方が古いと思われる。北西の隅柱(P1)は調査区域外にあると考えられる。規模は3間×1間で、桁行が7.72m、梁行は5.40mである。柱間は桁行2.40~2.88mで、梁行のほぼ1/2となっている。主軸方位はN-48°-Eを指す。

柱掘形は円形または楕円形で、直径52~88cm、深さは62~81cmである。柱痕は、土層観察が出来なかったP7以外の柱穴で確認され、柱痕の直下にロームブロックが観察された。

出土遺物は小片が少量である。P2・P5・P6・P8から出土した。接合率は極めて悪く、図示した土師器壺も残存率は低い。これ以外に土師器壺が認

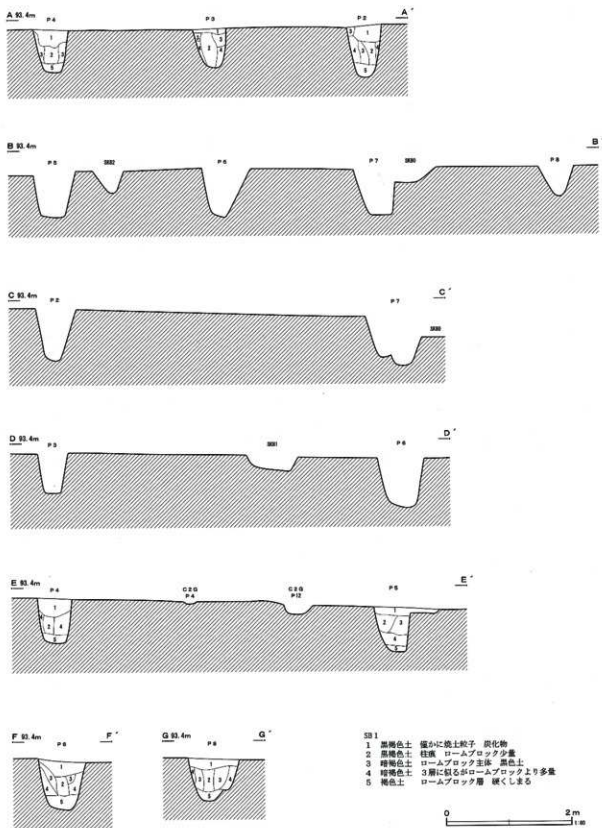
められた。土錘がP2から出土した。

第2号掘立柱建物跡 (第109図)

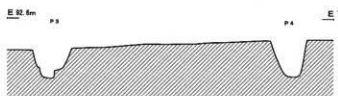
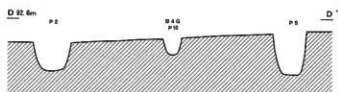
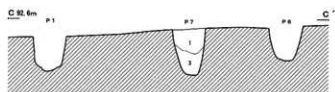
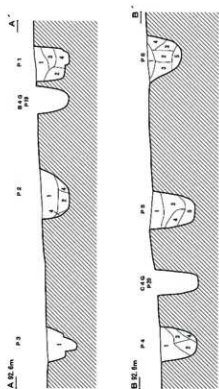
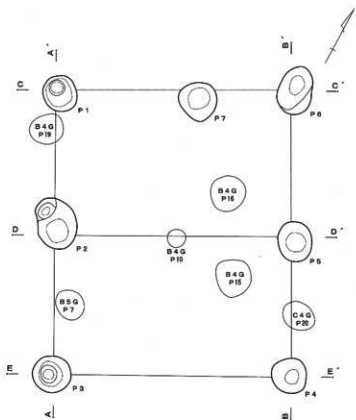
B-4・5、C-4・5グリッドに位置する。6基のグリッドピットと重複し、新旧関係は不明瞭だが、本掘立柱建物跡が古いと思われる。規模は2間×2間で、桁行が4.50m、梁行は3.78mである。北辺の中間柱は中央より北東隅柱に寄って検出された。南辺の中間柱は検出できなかった。柱間は桁行が2.2~2.3m、梁行は1.44~2.34mである。主軸方位はN-29°-Wを指す。

柱穴は直径58~84cmの円形で、深さは44~73cmである。柱痕は何れの柱穴でも確認出来なかった。

遺物は、P3・P4・P6・P7・P8から合計7点が出土したのみである。接合率は極めて悪く、図示した土師器壺も残存率は低い。これ以外には土師器壺が認められた。



第108図 第1号掘立柱建物跡(2)

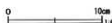
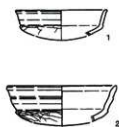


- SB2
- 1 黒褐色土 ロームブロック多量
 - 2 黒褐色土 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色土 ロームブロックと黒色土の混土层
 - 4 暗褐色土 3層に似るが黒色土の割合が多い
 - 5 黒褐色土 しまり強

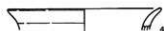


第109図 第2号掘立柱建物跡

SB 1



SB 2



第110図 掘立柱建物跡出土遺物

第36表 掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第110図)

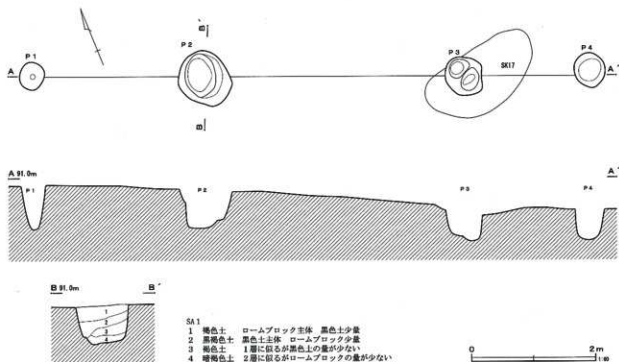
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	土師器	坏	(9.5)	(2.7)	—	C・H・I	20	普通	SB 1-P5	磨滅顯著	61-1
2	土師器	坏	(11.5)	(3.8)	—	C・H・I	20	良好	SB 1-P5		
3	土製品	土唾	孔径: 0.5cm 長: 4.9cm 径: 1.9cm 重: 13.1g			C・I	70	明赤褐	SB1-P2		
4	土師器	小型壺	(16.0)	(2.3)	—		5	良好	SB2-P4		

(3) 柵列

第1号柵列 (第111図)

F-6・7グリッドに位置する。第8号住居跡、第17号土坑と重複していた。新旧関係は第8号住居跡より新しく、第17号土坑より古い。全長は9.0m、柱間はP1-2.70m-P2-4.35m-P3-1.95m-P4で、列の方位はN-68°-Wである。柱穴は

直径44~90cmのやや歪んだ円形が主で、P7は2基が重なったような状況であった。覆土の観察はP2でのみ出来たが、柱痕は確認できなかった。深さはP1から69cm・61cm・56cm・48cmである。遺物は出土しなかった。



第111図 第1号柵列

(4) 土坑

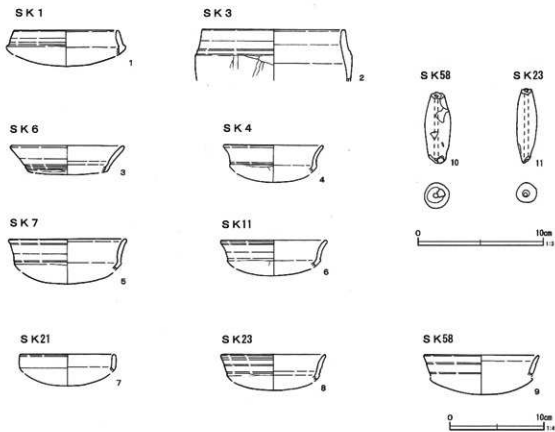
土坑は調査区全体で検出され、122基が調査された。調査時は土坑番号を付したほぼ全てを精査したが、覆土の観察により約2/3の80基が現代の所産と判明した。このため、整理の段階でこれらを攪乱とし、土坑番号は欠番とした。また、土坑として取り扱った42基のうち、縄文時代の所産と考えられるものが6基、古墳時代が1基で、他は覆土の状況から近世の所産とした。ここでは古墳時代の土坑以外は個別の記載は行わず、一覧表とした。

一部の近世の土坑からは縄文土器・土師器・須恵器等が出土したが、遺構に伴うものではないと判断した。

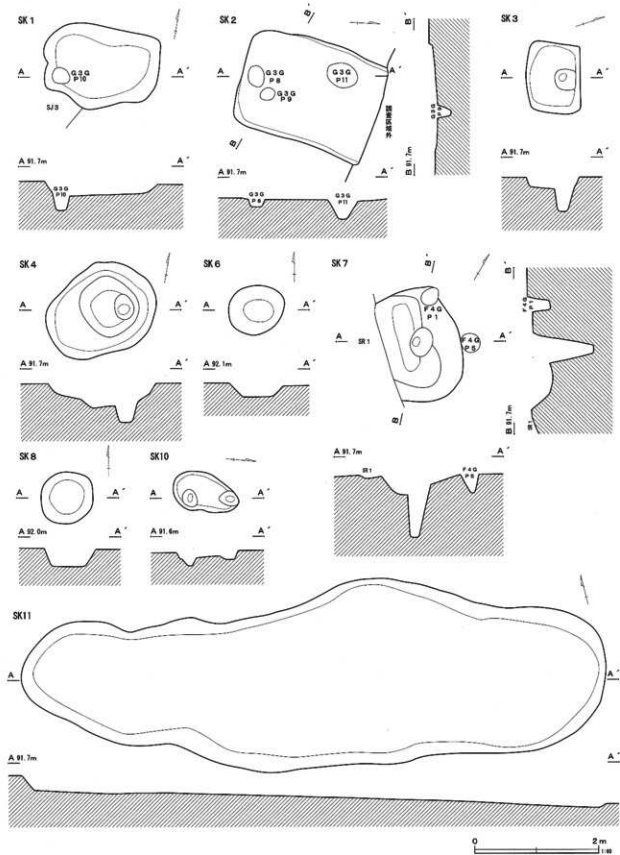
第43号土坑 (第115図)

本遺跡唯一の古墳時代の所産と考えられる土坑である。F-6・7グリッドに位置する。北側を第8号住居跡に壊され、南は調査区域外にある。東辺と西辺が検出されたのみで、全体の平面形や規模は不明である。検出された規模は、東西2.66m、南北2.54m、深さは0.05m前後で、東辺と西辺は緩やかな弧を描いている。西辺の方位はN-2°-Wである。床面は平坦だが、地形と同様に東に向かって低くなっている。覆土の細かな観察は出来なかったが、第8号住居跡調査時の土層観察から住居跡より古いと判断した。

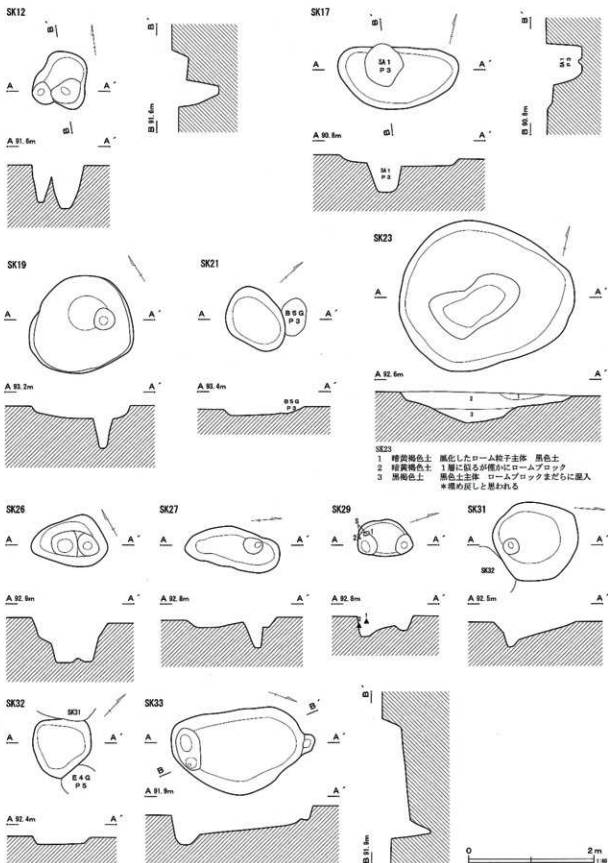
遺物は出土しなかった。



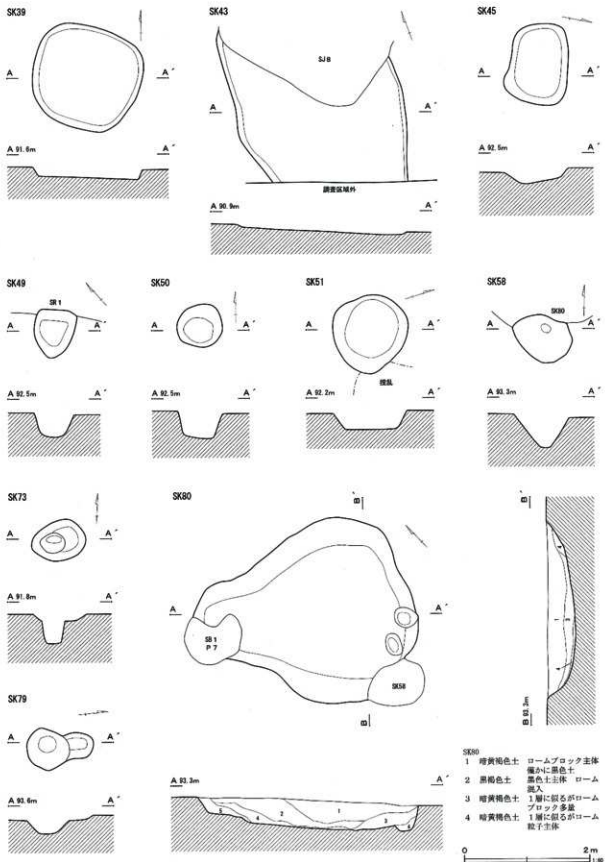
第112図 土坑出土遺物



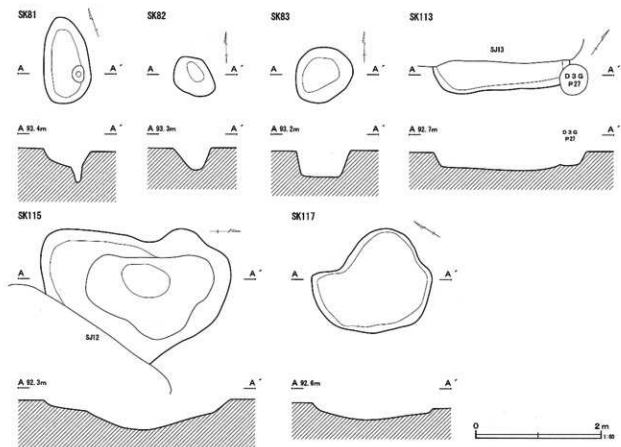
第113圖 土坑 (I)



第114図 土坑 (2)



第115図 土坑 (3)



第116図 土坑 (4)

第37表 土坑出土遺物観察表 (第112図)

番号	類別	器種	口径(m)	器高(cm)	器径(cm)	胎土・石材	胎%	焼成	色調	遺構番号	備考	図版
1	土師器	坏	(10.8)	(2.6)	—	I	5	良好	黒褐	SK 1	炭化物一部付着	
2	土師器	鉢	(15.0)	(5.5)	—	C・H・I	10	良好	にぶい赤褐	SK 3		
3	土師器	坏	(12.0)	(2.8)	—	C・H	10	普通	橙	SK 6	磨減顯著	
4	土師器	坏	(10.6)	(2.9)	—	H・I	10	普通	橙	SK 4	磨減顯著	
5	土師器	坏	(12.2)	(3.4)	—	H・I	5	普通	橙	SK 7	磨減顯著	
6	土師器	坏	(11.0)	(2.9)	—	C・H・I	10	良好	橙	SK11		
7	土師器	坏	(10.0)	(1.8)	—	C・H・I	5	普通	橙	SK21	磨減顯著	
8	土師器	坏	(11.0)	(2.9)	—	H	5	良好	橙	SK23		
9	土師器	坏	(12.0)	(2.2)	—	C・H・I	5	良好	橙	SK58		
10	土製品	土罐	孔径: 0.3cm	長: 5.7cm	径: 2.0cm	重: 18.6g	80		明赤褐	SK58		61-1
11	土製品	土罐	孔径: 0.3cm	長: 6.0cm	径: 1.7cm	重: 11.6g	95		明赤褐	SK23		61-1

第38表 土坑一覧表(1)

No.	時期	形状	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		重複	グリッド	備考
1	近世	不整形	N-90°-W	1.86	1.32	0.21		SJ3, G-3-P10, SK11	G-3	
2	近世	長方形	N-14°-E (2.28)	1.66	0.16			G-3-P8・9・11	G-2・3	
3	近世	隅丸長方形	N-69°-W	1.08	0.86	0.18	0.36		G-3	
4	近世	楕円形	N-50°-E	1.80	1.40	0.41	0.24		F-3, G-3	
5	攪乱								F-3	
6	近世	円形	N-90°-W	0.89	0.78	0.24			F-3	
7	近世	不整形	N-46°-W	1.80	1.20	0.30		0.70 SR1, F-4-P1・5	F-4	
8	近世	円形	N-90°-W	0.82	0.81	0.29			E-4, F-4	
9	攪乱								F-4	
10	近世	楕円形	N-13°-E	1.08	0.62	0.09	0.12	0.08	F-5	
11	近世	長方形	N-77°-W	9.30	2.94	0.23		SK1	F-3, G-3	
12	近世	不整形	N-53°-E	0.84	0.70	0.25	0.50	0.37	F-5	
13	攪乱								G-4	
14	攪乱								F-5	
15	攪乱								F-5	
16	攪乱								F-5	
17	近世	楕円形	N-78°-E	1.90	0.96	0.15		SA1-P3	F-6	
18	攪乱								A-5	
19	近世	円形	N-90°-W	1.68	1.50	0.21	0.47		A-5	
20	攪乱								B-5	
21	近世	楕円形	N-90°-W	1.06	0.80	0.10		B-5-P3	B-5	
22	攪乱								B-5	
23	近世	不整形	N-90°-W	2.78	2.30	0.48			E-2	
24	攪乱								E-2	
25	攪乱								E-2	
26	近世	不整形	N-63°-W	1.20	0.80	0.39	0.30	0.28	D-2, E-2	
27	近世	楕円形	N-7°-E	1.50	0.64	0.15	0.31		E-2・3	
28	攪乱								D-2	
29	近世	楕円形	N-33°-E	0.88	0.56	0.27	0.09	0.07	D-3	
30	攪乱								E-3	
31	近世	円形	N-0°-E	1.34	1.22	0.25	0.11	SK32	E-3・4	
32	近世	不整形	N-45°-E (0.94)	0.92	0.13			SK31, E-4-P5	E-4	
33	近世	楕円形	N-18°-W	2.26	1.32	0.30	0.33	0.16	E-5	
34	攪乱								E-4	
35	攪乱								E-4	
36	攪乱								E-5	
37	攪乱								E-5	
38	攪乱								E-5	
39	近世	円形	N-73°-W	1.68	1.64	0.15			E-5・6	
40	攪乱								E-5	
41	攪乱								E-5	
42	攪乱								E-5	
43	古墳	不整形	N-2°-W (2.40)	2.66	0.04			SJ8	F-6・7	
44	攪乱								欠番	
45	近世	隅丸長方形	N-90°-W	1.30	0.90	0.20	0.21		E-3	
46	攪乱								欠番	
47	攪乱								E-3	
48	攪乱								E-3	
49	近世	不整形	N-50°-E	0.76	0.64	0.36		SR1	E-3	
50	近世	円形	N-90°-W	0.72	0.66	0.40			E-3	
51	近世	円形	N-0°	1.18	1.18	0.32			E-4	

第39表 土坑一覧表 (2)

No.	時期	形状	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		重複	グリッド	備考
52	擾乱								E-6	
53	擾乱								D-2	
54	擾乱								D-2	
55	擾乱								D-2	SB1-P8に変更
56	擾乱								D-2	
57	擾乱								D-2	
58	近世	不整形円形	N-45°-W	(0.84)	0.72	0.50		SK80	D-2	
59	近世								欠番	
60	擾乱								D-2	
61	擾乱								D-2	
62	擾乱								D-2	
63	擾乱								D-2	
64	擾乱								D-3	
65	擾乱								D-3	
66	擾乱								D-3	
67	擾乱								D-3	
68	擾乱								D-5	
69	擾乱								D-5	
70	擾乱								D-5	
71	擾乱								D-5	
72	縄文	不整形円形	N-83°-W	1.04	0.86	0.42		D-5-P2	D-5	
73	近世	楕円形	N-90°-W	0.86	0.62	0.12	0.33		D-5	
74	擾乱								D-5	
75	擾乱								E-6	
76	擾乱								E-6	
77	擾乱								E-6	
78	擾乱								C-2	
79	近世	不整形	N-0°	1.04	0.66	0.24	0.05		C-1	
80	近世	不整形	N-47°-W	3.46	2.82	0.44		SK58, SB1-P7	D-2	
81	近世	楕円形	N-18°-E	1.36	0.72	0.27	0.24		C-2	
82	近世	不整形円形	N-44°-W	0.74	0.56	0.35			C-2	
83	近世	円形	N-46°-E	0.94	0.82	0.44			C-2・3	
84	擾乱								C-4	
85	擾乱								C-4	
86	擾乱								C-4	
87	擾乱								C-5	
88	縄文	不整形円形	N-83°-E	0.83	0.72	0.36		C-4-P10	C-4	
89	擾乱								C-1	
90	擾乱								D-1	
91	擾乱								C-5	
92	擾乱								C-5	
93	擾乱								C-5	
94	擾乱								B-5	
95	擾乱								B-4	
96	擾乱								B-4	
97	擾乱								C-3	
98	擾乱								C-3	
99	擾乱								D-3	
100	近世								欠番	
101	擾乱								D-3	
102	擾乱								D-3	
103	擾乱								D-3	

第40表 土坑一覧表 (3)

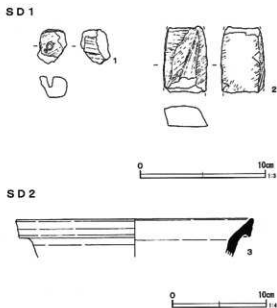
No.	時期	形状	主軸方位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	重複	グリッド	備考
104	擾乱							B-2	
105	擾乱							B-2	
106	擾乱							B-2	
107	擾乱							B-2	
108	擾乱							C-2	
109	擾乱							C-3	
110	擾乱							B-3	
111	縄文	不整な長楕円形	N-33°-E	3.00	2.28	0.22		B-3	掘込み1
	縄文	隅丸方形	N-84°-W	2.02	1.94	0.54		B-3	掘込み2
112	擾乱							D-3	
113	近世	隅丸長方形	N-55°-E	2.20	(0.56)	0.30	SJ13・18, P-3・P27	D-3・4	
114	擾乱							D-4	
115	近世	不整形	N-20°-E	2.96	1.90	0.50	SJ12, SJ18-P4	D-4	
116	縄文	不整楕円形	N-0°	1.08	0.76	0.20		D-4	
117	近世	不整形	N-54°-W	1.74	1.48	0.23		A-4, B-4	
118	擾乱							F-6	
119	縄文	楕円形	N-72°-E	1.20	1.04	0.09	SJ19	B-4	
120	擾乱							D-2	
121	縄文	不整楕円形	N-14°-E	0.90	0.76	0.12		B-3	
122	擾乱							C-2	

(5) 溝跡

第1号溝跡 (第118図)

調査区南東端のE-6、F-5・6グリッドに位置する。第9号住居跡、5基のグリッドピットと重複し、一部は擾乱に壊されていた。新旧関係は、住居跡より新しく、グリッドピットとの関係は不明である。やや蛇行をしながら南東側を内側にした緩やかな弧を描いている。E-6グリッド内で第2号溝跡と接続する。検出された長さは直線で20.2m、幅0.81~2.24m、深さ0.12~0.23mである。

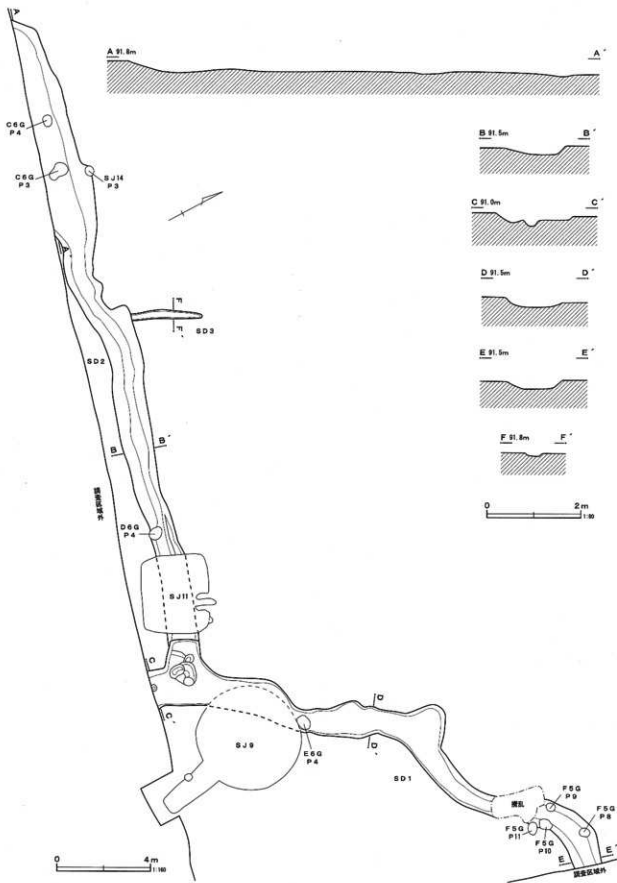
底面の標高は北端90.8m、中央付近90.9m、南端90.7mで、比高差は少ない。南端付近の床面には直径20~50cm、深さ16~25cmのピットが集中して検出された。



第117図 溝跡出土遺物

第41表 溝跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土・石材	胎色	焼成	色調	出土位置	備考	図版
1	石製品	砥石	泥岩	長:(2.7)cm	幅:(2.4)cm	厚:1.6cm	重:11.1g			SD 1		61-2
2	石製品	砥石	泥岩	長:(5.0)cm	幅:3.5cm	厚:1.5cm	重:39.0g			SD 1		61-2
3	須臾器	甕	(24.8)	(4.0)	-	B	5	普通	暗灰	SD 2	木野産	



第118圖 溝跡

遺物は、縄文土器片と土師器・須恵器の小片が少量、砥石が出土した。また、製錬炉の鉄滓・炉壁が6点、総量2,100gが出土した。何れも本溝跡に伴うものではないと考えられる。

第2号溝跡 (第118図)

調査区南端のB-6、C-6、D-6、E-6グリッドに位置する。第11号住居跡、4基のグリッドピットと重複していた。新旧関係は、住居跡より新しく、グリッドピットとの関係は不明である。B-6グリッドの南端から検出され、ほぼ直線的に走る。D-6グリッド内で第3号溝跡と、E-6グリッド内で第1号溝跡と接続する。検出された長さは23.2m、幅0.96~1.68m、深さ0.16~0.30mである。

底面の標高は西端91.5m、中央付近91.1m、東端の

第1号溝跡との接続付近は90.7mで、東ほど低くなっている。また、第1号溝跡との接続手前で約8cmの段が検出された。

遺物は、縄文土器片と僅かに土師器・須恵器の小片が出土した。また、製錬炉の鉄滓・炉壁が18点、総量1,575gが出土した。何れも本溝跡に伴うものではないと考えられる。

第3号溝跡 (第118図)

D-6グリッドに位置する。D-6グリッド内で第2号溝跡と接続する。検出された長さは3.12m、幅0.22~0.32m、深さ0.06m前後で、直線的に走る。

底面の標高は北端91.5m、南端の第2号溝跡との接続付近で91.4mである。

遺物は出土しなかった。

(6) 道路跡

第1号道路跡 (第119図)

調査区北東のD-2、E-2、E-3、F-3、F-4、G-4に位置する。第7号住居跡、第7号土坑、第49号土坑及び3基のグリッドピットと重複している。新旧関係は、第7号住居跡より新しく、土坑、ピットとの新旧関係は不明である。断面の観察では、2~4層は極めて堅緻であり、掘窪めた部分に粘土を埋め固めたものと考えられる。4層に浅間A軽石が混入していることから天明3(1783)年以

降に設置された道であり、旧帝国陸軍陸地測量部の明治18(1886)年測量の迅速測図にも同様の方向に走る道が掲載されている。また、地元の話では現在の道路ができる前の道で、昭和の初め頃に改修されたようである。

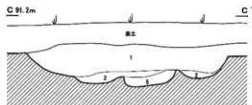
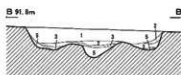
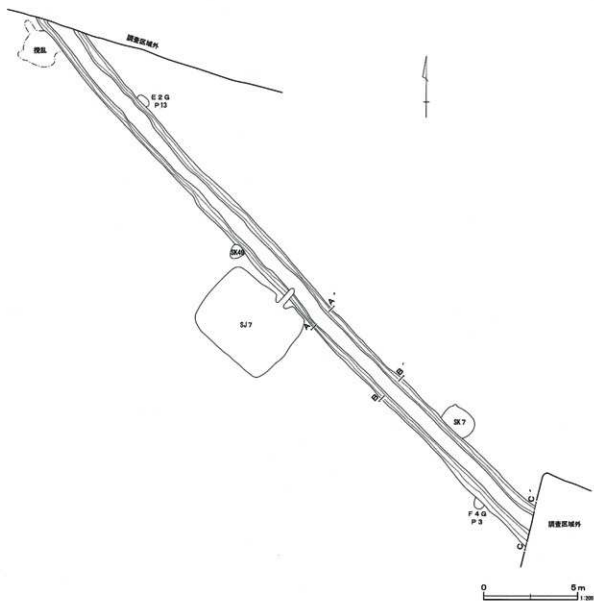
検出された長さは38.2m、幅1.2mである。

遺物は土師器・須恵器の破片が出土しているが、何れも接合せず、図示できるものはない。出土した遺物は本道路跡に関連したものとは考えにくい。

(7) ピット (第120図)

検出されたピットは合計307基で、調査区全体で検出されている。中央付近はやや希薄で、北半部の住居跡や掘立柱建物跡周辺に集中する傾向が見られる。掘立柱建物跡、柵列としたもの以外には規則性は認められず、建物跡を構成するようなピットを確認することは出来なかった。

大半のピットからは遺物の出土はなかったが、土師器・須恵器の小片が出土したものも見られた。また、G-3グリッドのピット4からほぼ完形に近い土師器環が出土した(第121図1)が、覆土の状態からピット自体は近世あるいは近代のものとは判断した。



- SR 1
- 1 黒褐色土 黒色土 ローム粒子
 - 2 暗灰色土 灰色粘土主体 僅かに黒色土
 - 3 暗灰色土 灰色粘土層
 - 4 暗灰色土 2層に亘るが後期A層石炭入
 - 5 黄褐色土 ローム粒子主体 黒色土
- ※ 2~4層は突き固められており、極めて緻密



第119図 道路跡

(8) 製鉄関連遺物 (第122図)

今回の堀込遺跡の調査では、数箇所遺構から製鉄関連の遺物が32点、4,886g出土している。大半は調査区南端の標高の低い地点に位置する第1号溝跡、第2号溝跡からの出土である。調査区内に製鉄関連の遺構が検出されていないことから、調査区外から流れてきたと考えられる。このことは遺跡より標高が高い地点に製鉄炉の存在を示唆しているの

はないだろうか。

製鉄関連遺物は出土した遺構とは直接関係ないが、周辺の遺跡や、寄居町における製鉄を考える上で重要と思われる。そこで、図示できるものはないが出土遺構・出土地点や数量等を一覧に示しておく。なお、第122図の網掛けした遺構が製鉄関連遺物を出土した遺構である。

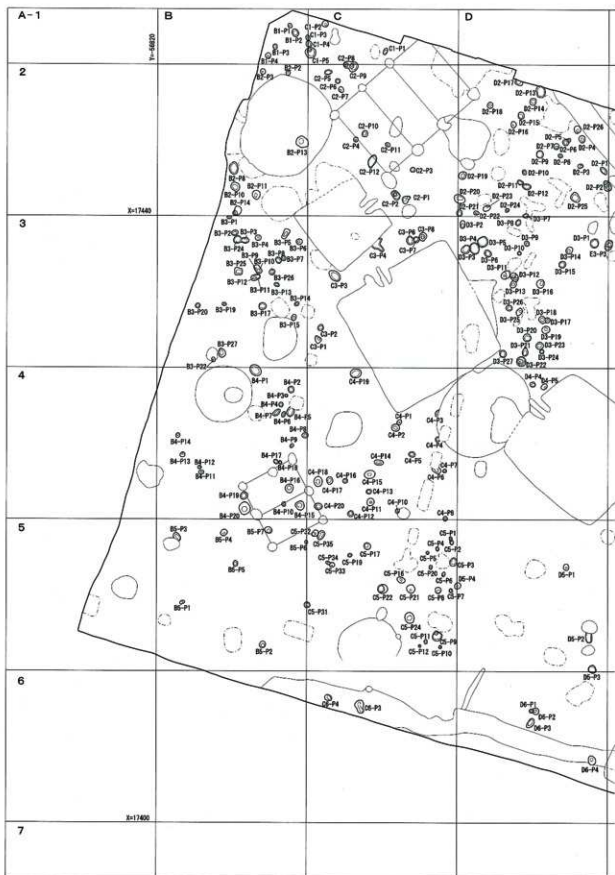
第42表 製鉄関連遺物一覧

出土遺構	種類	点数	重量 (g)
SJ9	鉄滓	2	140
SD1	鉄滓・炉壁	6	2,100
SD2	鉄滓・炉壁	18	1,575
SR1	鉄滓	1	90
C-6グリッド	鉄滓	2	60
SK16 (攪乱)	鉄滓	1	55
SK93 (攪乱)	鉄滓	1	850
SK105 (攪乱)	鉄滓	1	16
計		32	4,886

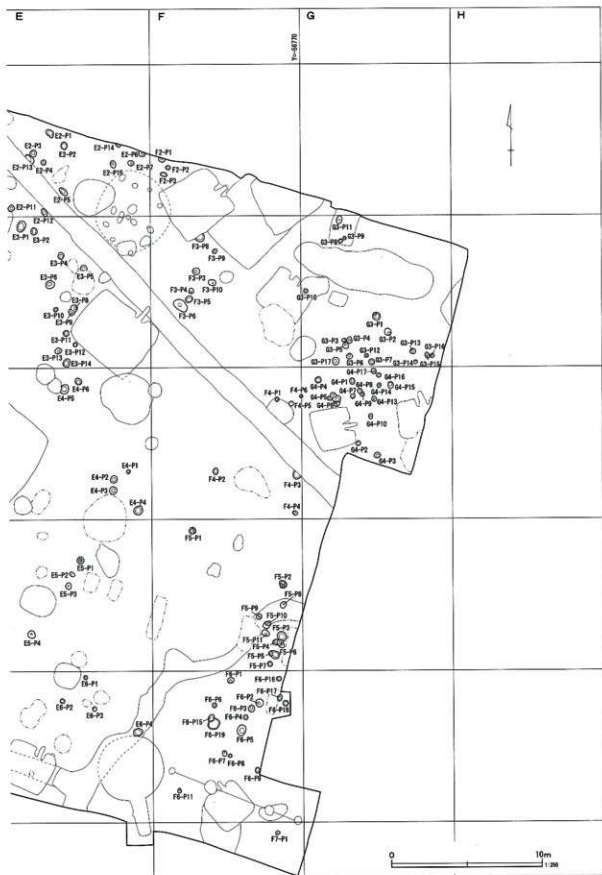
(9) グリッド出土遺物 (第121図)

グリッド出土・表探の遺物は第121図に一括して示した。この中には調査時に土坑としていたが、後に現代の攪乱とした土坑や倒木痕出土の遺物も含まれる。

土師器・須恵器の破片、図示したものは坏、甕底部、皿、土錘、白玉、銭貨が出土している。甕底部 (第121図5) には木葉痕が観察される。



第120図 グリッドピット



第43表 ビット一覧表 (1)

グリッド	No.	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	グリッド	No.	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	
B-1	1	32.0	28.0	34.4		B-4	8	42.0	36.0	16.9		
	2	50.0	42.0	44.1			9	28.0	26.0	21.3		
	3	34.0	28.0	22.3			10	30.0	28.0	24.9		
	4	40.0	36.0	26.8			11	36.0	26.0	25.1		
B-2	1				欠番		12	24.0	22.0	14.1		
	2	32.0	30.0	24.3			13	34.0	32.0	41.2		
	3	36.0	34.0	13.0			14	28.0	28.0	38.7		
	4				欠番		15	62.0	60.0	49.9		
	5				欠番		16	56.0	54.0	63.5		
	6				欠番		17	32.0	30.0	9.7		
	7				欠番		18	24.0	22.0	7.5		
	8	80.0	60.0	19.9			19	52.0	50.0	52.8		
	9				欠番		20	82.0	76.0	37.4		
	10	64.0	52.0	14.6			B-5	1	36.0	26.0	11.0	
	11	60.0	52.0	60.0				2	44.0	44.0	39.6	
	12				欠番			3	54.0	(50.0)	10.5	
	13	84.0	70.0	28.3				4	46.0	42.0	30.2	
	14	70.0	48.0	55.3				5	38.0	32.0	19.1	
B-3	1	30.0	22.0	19.6				6	24.0	20.0	26.4	
	2	46.0	36.0	13.0		7		48.0	44.0	52.8		
	3	60.0	38.0	15.9		C-1	1	44.0	26.0	13.3		
	4	38.0	34.0	57.0			2	42.0	42.0	54.0		
	5	72.0	40.0	23.2			3	38.0	26.0	37.4		
	6	40.0	36.0	23.0			4	44.0	40.0	19.8		
	7	32.0	30.0	33.7			5	72.0	68.0	39.9		
	8	46.0	34.0	41.7			C-2	1	60.0	46.0	29.9	
	9	40.0	36.0	41.0				2	66.0	46.0	28.7	
	10	(40.0)	40.0	38.5		3		34.0	32.0	12.0		
	11	(26.0)	36.0	12.6		4		34.0	30.0	62.0		
	12	42.0	40.0	28.7		5		52.0	30.0	14.2		
	13	36.0	26.0	10.5		6		34.0	32.0	38.9		
	14	34.0	24.0	30.0		7		42.0	32.0	39.8		
	15	40.0	30.0	19.0		8		42.0	34.0	27.0		
	16				欠番	9		68.0	58.0	32.0		
	17	50.0	46.0	12.2		10		44.0	36.0	10.7		
	18				欠番	11		36.0	26.0	9.9		
	19	30.0	20.0	14.4		12		92.0	52.0	14.4		
	20	32.0	32.0	9.8		C-3	1	52.0	42.0	24.7		
	21				欠番		2	46.0	36.0	16.4		
	22	32.0	24.0	14.4			3	88.0	58.0	31.8		
	23				欠番		4	(84.0)	82.0	13.7		
	24	(46.0)	44.0	11.2			5				欠番	
	25	60.0	56.0	16.7			6	56.0	48.0	17.2		
	26	40.0	40.0	26.4			7	40.0	(38.0)	6.8		
	27	64.0	50.0	29.6		8	54.0	52.0	36.5			
	B-4	1	76.0	74.0	19.4		C-4	1	32.0	28.0	22.7	
2		46.0	42.0	22.4		2		54.0	46.0	20.3		
3		22.0	20.0	8.5		3		68.0	(64.0)	18.5		
4		32.0	30.0	10.6		4		32.0	(24.0)	19.2		
5		(66.0)	54.0	26.5		5		44.0	40.0	21.1		
6		34.0	26.0	16.9		6		60.0	(40.0)	48.0		
7		50.0	46.0	13.9		7		26.0	24.0	15.5		

第44表 ビット一覧表 (2)

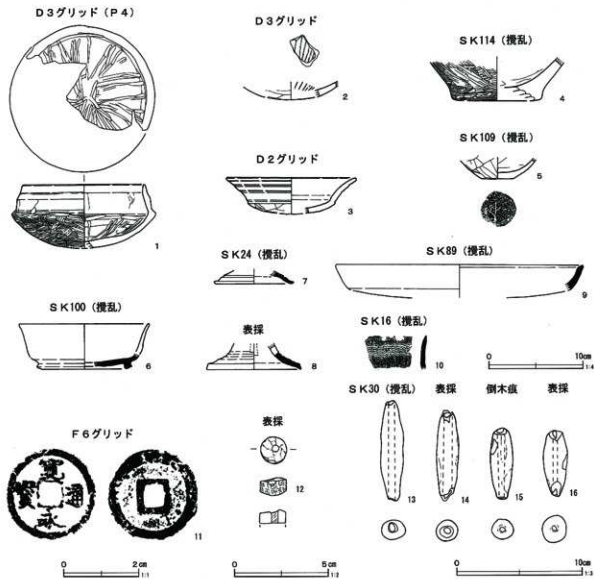
グリッド	No.	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	グリッド	No.	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	
C-4	8	32.0	26.0	23.3		C-6	4	46.0	40.0	30.3		
	9				欠番		1	58.0	34.0	8.5		
	10	32.0	30.0	30.8			2	68.0	50.0	17.9		
	11	52.0	50.0	52.3			3	40.0	28.0	7.6		
	12	42.0	40.0	16.8			4	50.0	44.0	19.0		
	13	36.0	32.0	18.3			5	26.0	22.0	25.6		
	14	60.0	36.0	29.0			6	38.0	34.0	23.8		
	15	74.0	54.0	67.3			7	40.0	38.0	23.8		
	16	32.0	32.0	12.1			8	30.0	26.0	14.7		
	17	52.0	40.0	18.0			9	50.0	44.0	10.0		
18	66.0	54.0	72.0		10		32.0	26.0	24.5			
19	72.0	60.0	21.8		11		42.0	30.0	15.6			
20	54.0	42.0	67.8		12		58.0	38.0	13.5			
C-5	1	26.0	20.0	10.6			D-2	13	80.0	62.0	11.0	
	2	30.0	24.0	10.5				14	44.0	42.0	25.3	
	3	56.0	44.0	18.8				15	44.0	42.0	7.5	
	4	30.0	24.0	10.1				16	40.0	36.0	19.2	
	5	22.0	20.0	15.8				17	58.0	(48.0)	43.5	
	6	32.0	22.0	17.7				18	44.0	38.0	28.2	
	7	26.0	24.0	24.3				19	54.0	46.0	14.6	
	8	42.0	40.0	37.8		20		78.0	54.0	53.2		
	9	58.0	64.0	22.6		21		44.0	36.0	11.2		
	10	22.0	18.0	21.2		22		36.0	28.0	20.5		
	11	30.0	22.0	35.1		23		52.0	36.0	50.0		
	12	18.0	18.0	18.7		24		26.0	24.0	8.0		
	13				SJ14へ編入	25		64.0	56.0	30.9		
	14				SJ14へ編入	26		50.0	44.0	19.0		
	15				SJ14へ編入	D-3		1	56.0	54.0	20.9	
	16	56.0	40.0	30.6				2	52.0	34.0	18.5	
	17	46.0	42.0	45.6				3	58.0	56.0	31.2	
	18				SJ14へ編入			4	74.0	60.0	25.4	
	19	30.0	22.0	10.0				5	72.0	70.0	18.6	
	20	30.0	22.0	25.3				6	46.0	46.0	18.9	
	21	56.0	52.0	50.5				7	40.0	28.0	12.7	
	22	66.0	60.0	56.5				8	40.0	36.0	6.4	
	23				SJ14へ編入			9	34.0	34.0	15.9	
	24	72.0	60.0	37.2				10	26.0	24.0	9.9	
	25				SJ14へ編入		11	56.0	56.0	27.7		
	26				SJ14へ編入		12	(54.0)	54.0	16.1		
	27				SJ14へ編入		13	44.0	40.0	15.4		
	28				SJ14へ編入		14	46.0	44.0	33.3		
	29				SJ14へ編入		15	46.0	42.0	11.1		
	30				SJ14へ編入		16	52.0	48.0	23.4		
	31	40.0	38.0	14.5			17	34.0	32.0	10.6		
	32	42.0	42.0	56.6			18	48.0	(42.0)	19.5		
	33	34.0	32.0	53.6			19	52.0	44.0	71.9		
	34	32.0	(32.0)	12.5			20	54.0	50.0	16.3		
	35	58.0	48.0	61.5			21	52.0	36.0	26.5		
	36				SJ14へ編入		22	62.0	60.0	50.9		
C-6	1				SJ14へ編入		23	50.0	48.0	13.7		
	2				SJ14へ編入		24	32.0	28.0	12.0		
	3	86.0	58.0	48.4		25	(60.0)	56.0	27.4			

第45表 ビット一覧表 (3)

グリッド	№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	グリッド	№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	
D-3	26	44.0	38.0	12.1		E-4	3	52.0	52.0	18.5		
	27	48.0	(44.0)	22.9			4	60.0	58.0	11.1		
D-4	1				欠番		5	56.0	(50.0)	14.5		
	2				欠番		6	46.0	44.0	18.5		
	3				欠番		E-5	1	48.0	46.0	36.4	
	4	36.0	34.0	22.1				2	38.0	34.0	57.0	
	5	40.0	38.0	19.6		3		46.0	38.0	58.0		
1	42.0	36.0	19.8		4	50.0		48.0	58.3			
D-5	2	(68.0)	44.0	12.1		E-6	1	30.0	24.0	56.4		
	3	50.0	50.0	9.6			2	32.0	30.0	17.6		
	4	42.0	42.0	14.0			3	30.0	30.0	34.5		
1	(26.0)	26.0	9.7		4		66.0	50.0	51.8			
2	46.0	38.0	11.0		5					SJ9へ編入		
D-6	3	62.0	52.0	14.2		F-2	1	44.0	26.0	12.8		
	4	62.0	46.0	57.2			2	34.0	32.0	55.5		
	1	62.0	44.0	13.8			3	46.0	28.0	12.0		
	2	52.0	44.0	8.6			4				SJ6へ編入	
E-2	3	46.0	44.0	45.5		1				SJ6へ編入		
	4	36.0	34.0	11.2		2				SJ6へ編入		
	5	64.0	34.0	17.2		3	50.0	48.0	24.0			
	6	52.0	(36.0)	19.4		4	38.0	34.0	16.2			
	7	44.0	34.0	20.8		5	48.0	44.0	9.0			
	8				SJ6へ編入	6	94.0	84.0	48.1			
	9				SJ6へ編入	7				SJ3へ編入		
	10				SJ6へ編入	8	60.0	(50.0)	18.8			
	11	44.0	44.0	23.3		9	32.0	32.0	6.4			
	12	54.0	34.0	7.6		10	52.0	38.0	13.8			
	13	68.0	34.0	18.4		F-4	1	30.0	26.0	35.8		
	14	40.0	(22.0)	12.8			2	44.0	32.0	12.2		
	15	48.0	36.0	68.8			3	64.0	(46.0)	12.7		
	16				SJ6へ編入		4	34.0	32.0	27.6		
	17				SJ6へ編入		5	32.0	28.0	31.2		
	1	74.0	60.0	16.8			6	24.0	20.0	6.9		
	E-3	2	48.0	44.0	36.5		F-5	1	44.0	44.0	17.3	
3		70.0	50.0	20.8		2		48.0	48.0	25.0		
4		44.0	40.0	28.0		3		(64.0)	60.0	19.0		
5		(36.0)	42.0	31.2		4		38.0	(36.0)	7.7		
6		60.0	54.0	24.9		5		72.0	56.0	22.5		
7					欠番	6		58.0	48.0	44.0		
8		(46.0)	44.0	29.7		7		34.0	32.0	23.8		
9		(42.0)	40.0	34.0		8		48.0	40.0	60.3		
10		30.0	28.0	23.0		9		40.0	36.0	51.5		
11		38.0	38.0	12.2		10		52.0	52.0	36.2		
12		30.0	28.0	10.2		11		52.0	44.0	62.5		
13		46.0	38.0	19.0		F-6	1	44.0	40.0	32.3		
14		58.0	46.0	18.0			2	54.0	52.0	39.5		
15					SJ6へ編入		3	46.0	40.0	31.8		
16					SJ6へ編入		4	32.0	30.0	28.3		
17					SJ6へ編入		5	70.0	62.0	69.1		
18					SJ6へ編入		6	32.0	32.0	26.2		
E-4		1	28.0	26.0	7.5			7	38.0	32.0	46.8	
	2	48.0	46.0	15.0			8	26.0	24.0	25.1		

第46表 ビット一覧表 (4)

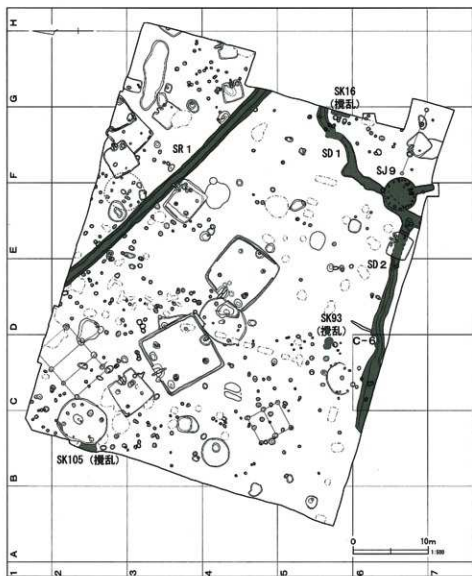
グリッド	№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考	グリッド	№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
F-6	9	36.0	26.0	13.4		F-6	15	50.0	42.0	62.6	
	10				SAへ編入		16	32.0	32.0	17.0	
	11	30.0	24.0	33.3			17	42.0	36.0	39.6	
	12				SAへ編入		18	36.0	36.0	28.4	
	13				SAへ編入		19	82.0	(70.0)	8.6	
	14				SAへ編入	F-7	1	30.0	28.0	13.9	



第121図 ビット・グリッド・表探出土遺物

第47表 ビット・グリッド・表探出土遺物観察表 (第121図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(m)	底径(m)	胎土・石材	跡(%)	焼成	色調	遺構番号	備考	図版	
1	土師器	坏	(12.8)	(6.8)	—	C・I	50	良好	橙	G3g-P 4	放射状暗文	59-10	
2	土師器	坏	—	(1.8)	—	C・H・I	5	良好	橙	D3g			
3	土師器	皿か	(13.8)	(3.8)	—	C・D・I	20	普通	橙	D2g			
4	土師器	甕	—	(4.6)	(9.5)	C・H・I	30	普通	にぶい橙	SK114 (攪乱)			
5	土師器	甕	—	(2.2)	3.5	C・G・H・I	80	良好	にぶい黄褐	SK109 (攪乱)			木葉痕
6	須恵器	高台付坏	—	(1.6)	(8.9)	B・I	20	良好	明灰	SK100 (攪乱)			末野産
7	須恵器	不明	—	(1.6)	(8.5)	I	15	普通	淡灰	SK24 (攪乱)			瓶頸の脚部? 末野産か
8	須恵器	高坏	—	(2.7)	(10.0)	B・I	30	良好	暗青灰	表探			末野産 2方透しか
9	須恵器	盤	(26.0)	(2.7)	—	I・K	5	良好	灰	SK89 (攪乱)			末野産か 脚が付く?
10	須恵器	提瓶か	(8.6)	(3.5)	—	E	—	良好	灰	SK16 (攪乱)			
11	銭貨	寛永通寶	銭径: 2.4cm 内径: 0.6cm 銭厚: 0.1cm 量目: 2.9g							F6g	1636~1659年 古寛永	56-6	
12	石製品	白玉	滑石 孔径: 0.3cm 最大径: 1.4cm 上面径: 1.4cm 厚: 0.9cm 重: 2.3g							表探		61-2	
13	土製品	土錘	孔径: 0.5cm 長: 7.4cm 径: 1.9cm 重: 21.7g				95		明黄褐	SK30 (攪乱)		61-1	
14	土製品	土錘	孔径: 0.7cm 長: 7.1cm 径: 1.7cm 重: 17.0g				90		明黄褐	表探		61-1	
15	土製品	土錘	孔径: 0.4cm 長: 5.6cm 径: 1.7cm 重: 13.5g				80		赤褐	風倒木 1		61-1	
16	土製品	土錘	孔径: 0.3cm 長: 5.2cm 径: 1.9cm 重: 15.8g				80		赤褐	表探		61-1	



第122図 製鉄関連遺物出土遺構

V 調査のまとめ

1. 縄文時代

調査区全体から大量の縄文土器が出土している。早期の燃系文土器から後期の堀之内2式まで各時代の土器が出土しているが、量的に主体をなすのは中期後半から後期初頭の土器片である。

遺構として確認されたのは堅穴住居跡6軒・土坑6基である。前期の復元土器を出土した第119号土坑を除けば、残りはすべて中期後葉から後期初頭に属する。

第17号住居跡は加曾利EⅡ式期で、連弧文土器を欠くもの新段階の所産と考えられる。

第18号住居跡は加曾利EⅢ式古段階。磨消懸垂文を伴うキャリパー類深鉢と吉井城山類が共存する中期末葉段階については包含層中から多量の破片が出土したものの遺構は検出されず、より新しい時代の遺構により破壊されたか、隣接地点に該期の遺構群が存在することが予想される。

第6・9・14・19号住居跡、第72・111・121号土坑はいずれも後期初頭段階のものと考えた。

この段階の堅穴住居跡については遺存状態の不良なものが目立つが、第9号住居跡は唯一の柄鏡形住居跡である。この段階としては貧弱な張出部を持ち、埋壘を持たず、複数個体の土器に由来する楕円形の土器囲い土器敷き炉を有するなど、柄鏡形住居跡としてはやや特異な存在である。

土坑は長径1m未満の比較的小型のものが大半だが、第111号土坑は長径3mを測る大型の土坑で、しばしば「小堅穴」ないし「堅穴状遺構」と表現されるクラスの規模を持つ。掘方の一端に配石を伴っており、いわゆる配石墓に類似するが、検出面から底面にかけて滴瀝なく遺物を包含しており、埋没状態の面で埋葬施設とは考えがたい。

以上のように、今回の発掘調査で検出された縄文

時代の住居跡・土坑のうち半数以上が後期初頭段階のものと考えたが、遺構ごと出土土器の様相の違いがみられ、少なくとも2段階の変遷が想定し得る。

第111号土坑は覆土中に多量の土器が一括廃棄されていた。組成の中心をなすのは胴部中段で文様帯が上下に分離し、胴下半部に逆V字型の懸垂文、上半部には鋸歯文ないしJ字文が配されるタイプの小型精製深鉢で、これに第51図7の胴部隆帯渦巻文土器、第50図3のアルファベット文土器が伴っている。一方、第14号住居跡の炉跡では第23図1に示した東北地方南部牛姪式系的大型深鉢といわゆる関沢類型の破片が共存し、さらに覆土中から同図2の称名寺式浅鉢が出土している。

第111号土坑出土のJ字文・鋸歯文の土器群を中期末葉の吉井城山類に後続するものと考え、一方で第14号住居跡出土の称名寺式の安定したJ字懸垂文を同Ib式段階のものと考えた場合、前者から後者への時期的変遷を想定することができる。

ここで問題となるのは、胴部に幅広の磨消懸垂文を描く大型深鉢を主体とする第9号住居跡出土土器群の帰属である。

加曾利E式の主流を外れる異系統の土器同士の組み合わせである第14号住居跡資料を除くすると、第111号土坑資料は半粗製の大型深鉢を欠き、逆に第9号住居跡資料は小型精製深鉢に乏しい。器種組成の面で偏りを持った資料同士を単純に比較することは困難だが、第9号住居跡資料にみられる小型精製深鉢の貧弱さを補うものとして次段階にこの地域における称名寺式土器の本格的な導入が促されるものと考え、同住居跡資料を第14号住居跡と同時代に位置付けておきたい。

2. 古墳時代以降

寄居町域の7世紀以後奈良・平安時代までの遺構と遺物については、町教委による用土中山、用土北沢、用土前峯、金嶽遺跡、むじな塚、露梨子、灰田原遺跡等の調査によって成果が挙げられている（井上1996、1997、石塚1997他）。以下ではこれらの成果に基づき、出土遺物と遺構について若干のまとめを行うことにする。

土師器模倣坏と長胴甕について見ると、环形土器は、所謂模倣坏の系統である口縁部が外反して立ち上がるものや、須恵器坏身を模倣した口縁部が内傾する环形土器はほとんど出土していない。後者は小形化し口縁部が直立気味のもの、第5、10、11、12、16号住居跡で出土したが、占有率はごく低い。

大部分は口縁部が有段の环形土器で、法量は口径11~13cm程である。有段部分はヨコナデないし木口状工具によるナデと棒状工具による沈線によって作出される。有段部分の作出手法については、工具併用のものからヨコナデによる作出、棒状工具による沈線へという方向性があるが、漸移的な移行とみられ、各々ヴァリエーションとして併存するとみ方がよい。口縁部と体部の境界をなす段ないし稜は、ヨコナデ後ヘラ削りのみで作出される後出的ものは、ほとんど出土していない。多くの場合、ヨコナデ後棒状工具による沈線または、木口状工具の端部を利用した沈線が加わるものとなっている。

体部が浅く、口縁部が有段で大きく開く皿状の环形土器は組成化しているが、比率は低い。

口縁部が内屈する环形土器は、第12号住居跡ではごく少量で、第13、16号住居跡の順で出土率があがっている。この环形土器の屈曲部分の作出手法については、粘土の粘性と展性を最大限に利用し、器厚の薄壁化、屈曲を達成したもので、以後の製作手法の方向性となる。口縁部ヨコナデ後体部との境界は稜線化しており、以下ヘラ削り部分と直接連動せず、未調整部分が残るか若干のナデが加わる程度である。境界としての段は消滅するのではなく、残る

ものもあり、第16号住居跡で出土している。

長胴甕の外面積ヘラ削りは7世紀前後には、口縁部下まで一気に削り取るものと、頸部に僅かに段ないし稜線を残すものがある。前者は消滅ないし甕形土器の外面積調として残存し、後者は「く」字状口縁の痕跡としての段ないし稜線の消滅過程であり、以後の薄壁化した長胴甕の生成過程でもあることが判っている。第12号住居跡では両者の存在が認められる。第13号住居跡では依然頸部の段が残っている。胴部の調整は、縦ないし斜めヘラ削りであるが、器壁の浅薄化により頸部が湾曲することにより、頸部直下に横ないし斜めヘラ削りが施されるようになる。底部は器壁が厚く、輪積みによっていることが明確である。第16号住居跡では、同一個体に部分的に僅かに段が残るものもあるが、概ね段が消滅しつつあり、頸部に明瞭なヘラの痕跡が残る。器壁は一層薄くなるため、上胴部での湾曲が見られる。底部は圧延技法によるものがあると考えられる。

その他の器種については、この時期の特徴として大形鉢が組成化していることが挙げられる。大形甕が出土しているが、小形の甕もあり機能の相違があると考えられる。高坏は1点のみ出土した。

須恵器は、坏身、高坏、盤、高盤、高台付坏、甕、横瓶、甕等が出土している。全て末野窯跡産のものと考えられる。

坏身は所謂坏Hは出土しておらず、全て坏Gとされるもので、手持ちのヘラ削りが残るものである。

高台付坏は攪乱（調査時SKI00とされた）から出土しており、位置的には第1号掘立柱建物跡と調査区際の間にあたる。第121図9の盤は攪乱（調査時SK89）出土であるが、高台付坏と同様な出土位置で第1号掘立柱建物跡に伴う可能性がある。第3号住居跡出土の高坏脚部は、短脚2段透かして3窓とみられ、末野第1~3号窯跡の灰原で短脚のものが出土している。

出土遺物が比較的多量であった第12、13、16号住居跡について検討したが、内屈する环形土器の消長、

長胴型、須恵器の様相から3軒の住居跡は、概ね7世紀の中葉から後半の時期が与えられ、この順で継起したとすることができる。

次に遺構についてみると、住居跡と掘立柱建物跡の配置は、大まかには大形住居跡が中央部に位置し、小形の住居跡が調査区北東隅と南東隅にまとまっている。掘立柱建物跡はこれら住居跡群の外側に配置される傾向がみられる。その他欄列が検出された。

重複関係にある住居跡は、第4、5、10号住居跡と第13、20号住居跡である。遺構間の距離で同時存在が難しい住居跡は、第3、4号住居跡と第13、16号住居跡、第16号住居跡と第1号掘立柱建物跡である。またカマド設置壁の方向も北、東壁の2種があり、建替えを考慮すると少なくとも3段階の集落変遷が想定できる。出土遺物を勘察すると、第12号住居跡を中心とした第2、3、8、20号住居跡の5軒、その後第13号住居跡を中心とする第1、4、5号住居跡の4軒、

最新段階に第16号住居跡を中心として第7、10、11、15号住居跡の5軒という3段階の変遷が考えられる。掘立柱建物跡は出土遺物が少なく、確認は無いが、住居跡の主軸方向を考慮すると第2号→第1号の変遷が考えられる。

一辺6m以上の大形住居跡と数軒の小型住居跡の組み合わせは、本庄市今井川越田遺跡、旧岡部町大寄遺跡、川本町如意遺跡等の7世紀代の大規模遺跡でしばしば検出される。本遺跡の場合、最終段階で小形化するが、一辺8mに及ぶ住居跡と掘立柱建物跡が共存する集落であった。木野窯跡に近く、製鉄関連遺跡、寺院跡、牧等が分布する地域的特性に加え、須恵器盤、高盤等の官衙的遺物が示すように、7世紀後半の初期律令期の交通諸関係の場で集落が成立していたと考えられるが、今後周辺遺跡の調査進展によって、より一層各遺跡が地域の中で一体のものとして捉えられるようになるであろう。

第48表 住居跡一覧表

住居番号	平面形				主軸方向	炉・カマド	カマド袖	主柱穴	ピット	貯蔵穴	壁溝	備考
	東西	南北	長さ	深さ								
(縄文)												
6	円ないし楕円	4.00			N-34°-E	埋壁炉			14			
9	柄鏡	6.66	4.38	0.14	N-12°-W	土器片囲い炉			28			
14	円ないし楕円	4.20	3.42	0.09	N-14°-W	埋壁炉			16			
17	楕円	6.60	5.70	0.45	N-28°-E	地床炉		4	5		北側	
18	楕円	6.60	5.16	0.21	N-42°-E	埋壁炉		4	2			建替え?
19	円	3.78	3.72	0.32	N-88°-W	焼土溜り						
(古墳)												
1	長方	2.41	2.44	0.25	N-19°-W	北壁	地山					
2	略正方	2.68	2.44	0.43	N-78°-E	東壁中央	粘土			カマド右		床下土坑
3	正方	3.16	2.91	0.28	N-39°-E	北壁中央西寄り	地山		1			
4	正方	4.74	4.82	0.28	N-44°-E	北壁?		4	1		北西コーナー、南壁	
5	長方	3.65	3.95	0.40	N-58°-E	北壁中央	粘土		2	カマド右	南壁	貼り床
7	長方	5.06	3.84	0.39	N-42°-E	北壁中央南寄り	粘土	4	1	カマド右	西壁	貼り床。拡張
8	正方	2.68	2.72	0.31	N-39°-W	北壁中央東寄り	地山		1			
10	正方?	4.00	4.00	0.56	N-62°-E	北東壁?				東コーナー	南東、南西壁	貼り床。4号(古)→10号(新)
11	長方	3.30	2.88	0.21	N-26°-E	北壁中央東寄り	地山		3	カマド右		貼り床
12	長方	7.48	8.28	0.56	N-50°-W	北西壁中央	粘土	6	3	西コーナー	四壁部分的に欠	貼り床。建替え。入り口ピット?
13	正方	8.00	8.00	0.60	N-29°-W	北西壁中央西寄り(B)	粘土			西コーナー	カマド、入り口	貼り床。建替え。入り口ピット?
						北西壁中央西寄り(A)	粘土	4		カマド右	ピット部分欠	
15	不明	2.70	1.26	0.27	N-36°-E				1			
16	台	4.66	4.90	0.34	N-52°-E	北東壁中央	粘土	4		カマド右	西コーナー	貼り床
20	不明	3.88	1.50	0.34	N-2°-W	北壁?			1	北壁近く		

引用・参考文献

- 赤熊浩一 1999 『末野遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集
赤熊浩一 2005 『中山遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第313集
石塚三夫 1996 『町内遺跡4 用土前峰遺跡(第4次)上寺西遺跡(第1次)』 寄居町文化財調査報告第15集 寄居町教育委員会
石塚三夫 1996 『用土北沢遺跡(1)』 寄居町文化財調査報告第16集 寄居町教育委員会
石塚三夫・町田ふみ 1996 『用土前峰遺跡(1次)』 寄居町遺跡調査会報告第18集 寄居町遺跡調査会
石塚三夫 1996 『用土前峰遺跡(第2・3次)』 寄居町遺跡調査会報告第8集 寄居町遺跡調査会
石塚三夫 1997 『灰田原遺跡』 寄居町遺跡調査会報告第13集 寄居町遺跡調査会
石塚三夫 1997 『用土北沢遺跡(2次) 用土台遺跡 用土柳林遺跡』 寄居町文化財調査報告第19集 寄居町教育委員会
石塚三夫 1999 『用土高城遺跡 用土北沢遺跡(4次)』 寄居町文化財調査報告第22集 寄居町教育委員会
石塚三夫 2000 『用土北沢遺跡(3次)』 寄居町文化財調査報告第23集 寄居町教育委員会
井上尚明・石塚三夫 1994 『町内遺跡1 末野塚跡群第9支群 むじな塚遺跡(第9次) 中芝遺跡(第2次)』 寄居町文化財調査報告第12集 寄居町教育委員会
井上尚明 1996 『甘粕原遺跡』 寄居町遺跡調査会報告第7集 寄居町遺跡調査会
井上尚明 1996 『むじな塚遺跡第4次調査』 寄居町遺跡調査会報告第10集 寄居町遺跡調査会
井上尚明 1997 『露梨子遺跡(第2次)』 寄居町遺跡調査会報告第12集 寄居町遺跡調査会
小林 高 1999 『沼下遺跡(第3次)』 寄居町遺跡調査会報告第17集 寄居町遺跡調査会
小林 高 1999 『末野塚跡第8支群2』 寄居町遺跡調査会報告第19集 寄居町遺跡調査会
小林 高 1999 『中山遺跡(第1次・第2次)』 寄居町遺跡調査会報告第20集 寄居町遺跡調査会
小林 高 1999 『町内遺跡7 出羽塚遺跡(第2次) 峯ヶ谷戸遺跡(第1次) 露梨子遺跡(第5次)』 寄居町文化財調査報告第21集 寄居町教育委員会
小林 高 2002 『町内遺跡9 前峰遺跡(第5次) 伊勢原遺跡(第2次)』 寄居町文化財調査報告第25集 寄居町教育委員会
小林 高 2004 『富田庚申塚遺跡(第1次)・東伴場地遺跡(第1次)・東遺跡(第3次)』 寄居町遺跡調査会報告第26集 寄居町遺跡調査会
小林 高 2006 『町内遺跡10 末野塚跡第5支群』 寄居町文化財調査報告第27集 寄居町教育委員会
埼玉県 1986 『新編埼玉県史 別編3 自然』
埼玉県 1987 『荒川自然—荒川総合調査報告書1—』
酒井清治 1984 『お耕地(Ⅱ)』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第33集
曾根原裕明 1982 『上南原』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第10集
高木義和 1978 『南藤田・井の岡遺跡』 寄居町文化財調査報告第3集 寄居町教育委員会
富田和夫・赤熊浩一 1985 『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群、一丁田・川越田・柳沢』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集
富田和夫ほか 1999 『城見上/末野Ⅲ/花園城跡/箱石』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第211集
並木 隆 1978 『甘粕原・ゴシン・露梨子遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告書第35集 埼玉県遺跡調査会
星岡孝志 1994 『桜沢原跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第143集
福田 聖 1998 『末野遺跡Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第196集
細田勝・岩田明広 1994 『樋ノ下遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第135集
細田勝・若松良一 2001 『箱石遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第267集
増田逸郎 1981 『清水谷・安光寺・北坂』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第1集
宮崎朝雄 1980 『甘粕山』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第30集 埼玉県教育委員会
大和修ほか 1982 『沼下・平原・新堀・中山・お金塚・中井丘・鶴巻・水久保・落久保遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第16集
寄居町教育委員会 1984 『寄居町史原始古代中世資料編』
寄居町教育委員会 1986 『寄居町史通史編』